JV16　パワーツール 2008 の
完全な取扱説明書

本電子的な取扱説明書（以下、電子取扱説明書）は、著者の許可はいらず自由に無償ダウロードしたり、印刷したりすることができます。ただし、本電子取扱説明書を商用の目的に印刷し、第三者に販売する場合、販売額は市販価額を上回ることが認めません。一方、著者の承諾なしに、本電子取扱説明書の販売が禁じられます。

本電子取扱説明書におけるすべての更新情報は www.macecraft.com までご参照してください。ご不明な点またはご質問があれば www.macecraft.com/forum/ のフォーラムご加入してください。

本電子取扱説明書はリリース前のバージョンを基づき作成されたものです。そのため、使用されたユーザーインターフェイスおよび機能名と jv16 パワーツールの内容と多少異なる場合がありますことをご了承ください。

マイクロソフト、マイクロソフトのウインドウズ、ウインドウズ NT 、ウインドウズ Me、ウインドウズ 2000、ウインドウズ XP とウインドウズ Vista は、マイクロソフト社の商標または登録商標です。その他の商標および製品名の著作権は各所有者に帰属します。

著作権 2005-2008 ジョーニ・フレミングに帰属します。
*ヴェーラ ペルトンネン*により編集されました。

目次

はじめに ……5
最低必要する使用環境……5
推奨環境……5
ノーナンセンス……5
ユーザビリティ……5
一般的な使い方……6
ユーザーインターフェイスに関する要点……6
レジストリの案内……7
レジストリの構造……7
レジストリをアクセスする……7
jv16 パワーツール 2008 の設定……8
インターフェイス……9
ウィンドウを管理する……10
ソフトウエアのインストール……11
上級セクション……12
メンテナンス……14
セキュリテイ……15
バックアップ……16
ファイルワイパー……18
ネットワーク機能……19
省略形……21
コメントを記入する……22
環境設定保存……23
メッセージング装置……24
主要なツール……25
ソフトマネージャー……28
カスタム　アンインストール……29
スタートアップマネージャー……31
レジストリマネージャー……32
特徴・機能……32
レジストリクリーナー……34
スキャンレポート……36
スキャン結果 Windows……37
エラーを修復する……38
レジストリファインダー……40
検索手段……41
Quick Perl の正規表現の案内……42
レジストリ探索と置換……43
レジストリ探索・置換の結果……44
レジストリモニター……45
新規スナップを作成する……46
スナップを比較する……46
比較した成果……48
レジストリの圧縮機……49
レジストリの情報ツール……50
ファイルファインダー……51
ファイルクリーナー……53
ファイルリカバリ……56
ファイル管理部……57
重複ファイルファインダー……59
ファイルツール……62
大量リネームツール……65

ファイル属性ツール……67
探索・置換ツール……68
探索・置換の結果画面……69
ファイル暗号化ツール……70
ファイル分析ツール……72
ディレクトリファインダー……74
ディレクトリツール……76
ディスクワイパー……78
スタートメニュ修復ツール……79
履歴・MRU クリーナー……80
自動化ツール……81
よくある質問・FAQ……83
Jv16 パワーツールのインストールについて……83
Jv16 パワーツールを使用前のご質問……83
ソフトマネージャについてのご質問……83
レジストリマネージャについてのご質問……84
レジストリクリーナーについてのご質問……84
重複するファイルファインダーについてのご質問……85
ファイルツールについてのご質問……86
ライセンスについてのご質問……86
その他のご質問……86
付録……87
コマンドラインパラメータに対応する……87
セキュリティ備考……88

はじめに

Windows システムの実用性を統一された Jv16 パワースツール 2008 は、簡単にシステムを清浄したり、最適化を行ったりまたは修復したりすることができます。本製品はお客様のパソコンの"ボンネットの下"まで届ける安全なかつ威力のある高度なツールを提供します。

最低必要する使用環境

- Windows 98, 98 SE, ME, NT, 2000, XP また Vista を使用するすべてのパソコン
- マウスまたはキーボード

推奨環境

- Windows NT, 2000, XP また Vista を使用するパソコン
- マウスとキーボード
- インターネット接続（プログラムの更新、ダウンロードやなどの時が必要とする）

（本製品は Windows 98、98SE と ME へのサポートが限られており、一部の機能は表示されない場合がありますのでご了承ください。）

ノーナンセンス

JV16 パワーツール 2008 にはキャンディー・グラフィックス、サウンド効果機能や他の余計なものを備えていません。そういう機能になれた様には、最初のとき本製品のユーザーインターフェイスが鈍いとみなすでしょう。ただし、.本ソフトを使い慣れる様には、他のソフトに変更しないでしょう。

マックスクラフト（Macecraft）ソフトウェアの目標はお客様が望まれる肝心なソフトウェアを作成することです。

ウインドウズ OS が実行している一般のコンピューターが根本的な操作条件です。
複製のファイルファインダー、レジストリモニターや他のいくつかの機能はそれ以上の処理能力が要求されますがいくら“鈍感な”パソコンでも敏速に働けます。

ユーザビリティ

Jv16 パワーツール 2008 は多くのコンピュータアプリケーションの中、ユーザーに対して非常にフレンドリーなソフトの一つです。さらに、多言語化にされ、英語以外の言語も応じます。マウスとキーボードがさえあれば操作することができます。さらに、印刷用の資料も記載されてあります。

ユーザーインテフェスに影響するのがユーザーに“使用しやすさ”だけではありません。本製品はお客様の承諾がない限り、勝手にシステムに統合したり、インターネットに接続したりしません。
そして、勝手にシステムの構成を変更したりまたは「C ： \ Windows \ system32」ディレクトリのファイルに書き込めたりしません。

一般的な使い方

一方、Jv16 は非常に安全かつ強力なツールです。たった簡単な操作方法しか覚えない初心者の方にも安心に操作できるソフトです。

ただし、操作決定を下すのはユーザーでり、精通しない操作またはよく知らない操作を行わないことを心に留めてください。たとえば、レジストリマネージャーまたはレジストリクリーナー内における認証できないデータ、もしくは異常な状況が現れたら、すべてを無視したのほうが一番安全かつ賢明な選択です。

Jv16 パワーツールは分析された状況に従って提案をします。同様に、操作決定を下すのはいつもユーザーであり、よく状況を理解していただく上判断してください。

Windows 2000, XP または Vista のような Windows NT 対応 OS を使用する場合、jv16 パワーツール 2008 を起動度、パソコンの管理者としてログインしなければなりません。本製品を起動するために、管理者の権限が必要となります。管理者の権限なしに、レジストリ・クリーナーはレジストリを分析することができない上、ファイル・ファイダーも全てのディレクトリを検索できない恐れがあります。

同様に、次のレジストリキ「HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Applets\Regedit」ををアクセスするため完全な管理者の権限が持たないと「*Open in RegEdit*」の機能も働けません。

注：Windows ME を含め、いずれかの Windows 9x システム、「*Open in RegEdit*」の機能が不具合が生じますのでご了承してください。

ユーザーインターフェイスに関する要点

Jv16 パワーツール 2008 は最も一般的なツールバーボタンしかリストしません。大量なツールバーのボタンがあるため、そのまま全部を表示することが不可能です。その代わりに、リストにあるアイテムを右クリックすると、関連するアイテムまたは選択されたアイテムが見えます。

同様に、同時に全ての機能を操作できるわけがありません。そのとき、通常に正常なボタンも無効になり、右クリックアイテムメニューも表示できません。ほとんどの右クリックメニューの機能はリストから最低１つのアイテムを選ぶ必要があります。ただし、１つだけで十分な時もあり、一方で２つ以上のがないと操作できない場合もありますのであらかじめご了承してください。

たった５分間で本製品にかかわる全部のウインドウズを一目で通すだけで、ごく一部の機能しか見えませんのでご注意ください。

レジストリの案内

本章はWindowsのレジストリに関する基本的な操作方法を説明します。本テーマに既に精通する方には本章を飛ばしてもかまいません。

Windows系システムにはどちらでもレジストリと呼ばれる機能がつきます。そこでWindows OSとサードパーティのアプリケーションソフトの情報が保存されます。Osシステムを含め、多くのアプリケーションソフトにはそれぞれの設定をレジストリに記録します。よって、レジストリはシステムの中に一番重要です。レジストリは主に使用したプログラムやOSデータを保存するデーダベースです。

レジストリの構造

レジストリは階層木構造に編成され（図１参照）、サブトゥリー（subtrees）とそれに関するキー、ハイブ（hives）と値エントリ(またエントリ名)に構成される。例をあげると：
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion
があります。
最初の部分は("HKEY_LOCAL_MACHINE")ルートキーまたは(ルート)ハイブ（hive）です。ファイルシステムのドライブレターのようなものです。次に、レジストリキー"Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion"があり、ファイルシステムのディレクトリパスに比較されます。そして、全ての実際データを含まれるレジストリエントリがあります。それはまるでファイルシステムのファイルのようです。それぞれのレジストリエントリは名前があります（“エントリ”ENTRYもしくは“名の値”VALUE　NAME）。

図１．レジストリの構造

レジストリをアクセスする

Windowsレジストリを直接にアクセスできません。アクセスするため、２つのアプリケーションレイヤを通す必要があります。そのために設計されたのは例えばjv１６パワーツールーまたは*Windows RegEdit*があります。ただし、上記の条件があっても直接にアクセスできません。よって、Windowsの中核機能(windows cores functions)が利用されます。要するに、Windowsに“その情報をいただけませんか。”と聞き、システムは可否を判断してから返事するようなやり取りです。

図２：レジストリをアクセスするレイヤの構造

警告：システム内のレジストリは一番不可欠な部分ですので、情報の更新や削除前、常に jv16 パワーツール 2008 にバックアップをさせてください。

jv16 パワーツール 2008 の設定

本章は製品のデフォルトの設定用について述べ、上級者以上の方には本章を飛ばしてもかまいません。

本製品の設定（*Settings.*）をアクセスするため、jv16 パワーツールを起動してからファイル> *Program Settings* をクリックして、（もしくはメインウィンドウの Ctrl+S を押すかメインウインドウの白いエリアを右クッリクするか）*Settings.*を選択してください。

インターフェイス

図3：インターフェイスを使用して jv16 パワーツールの操作設定を定義する

インターフェイスセクションを使用すれば jv16 パワーツール 2008 の操作設定を変更することができます。

- 透明性効果設定(*Transparency effect setting*) － jv16 パワーツールのウインドズが透明化にする必要があるかどうかを判決します。この機能は Windows 2000 以降のソフトに対応しません。そして、実際のパフォーマンスは使用されたビデオカードおよびドライバのパフォーマンスに左右されますのでご了承してください。
- メインウインドウ（*The Main window*）－ 本設定によりプログラムのメインウィンドウの様子を定めることができます。
- フォントセクション（*The Font* section）－ 使用されるフォントを変化することができます。**ただし、システムに使われる文字セットとデフォルトのフォントが適切する限り、フォント設定への変更を推奨しません。**
- オプションのフラット・スクロールバー（*The Flat scroll bars*）－ jv16 パワーツールにおける全部のスクロールバーを平らにします。（多少 Office2000 または XP と似てます)
- 格子線（*The Grid lines*）－ 読みやすくため、リストとアイテムの間に小型の行が追加できます。

ウィンドウを管理する

図４：ウィンドウズプログラムの操作がウィンドウ設定管理（Window management settings）により決定される

*ウィンドウ設定管理*セクションを使用してプログラムの操作方法を決定します。下記の機能が提供されます。

- ***screen snap***（スクリーンスナップ）― ウィンドウズ設定のプログラムにおける位置調整が容易になります。ウィンドウズプログラムがパソコンのスクリーンの端まで簡単に移動させます。
- *Automatically close the main window after a new window is opened*とは、レジストリ・クリーナーまたはDirectoryツールが起動されたら、メインウィンドウを閉じる必要性があるかどうかを定義します。
- ***Automatically close the tool window after the results are shown*** *とは*、操作が終了後、結果が表示された時、レジストリ・クリーナーまたはファイル・クリーナーのようなツールの画面を閉じる必要性があるかどうかを定義します。
- *Open small tool windows to the center of the main screen* はレジストリ・クリーナーまたはファイル・ファイダーのような小さい画面をメインウィンドウの中央に開くことを強制します。
- *Always keep tool windows in front of the main window forces* はレジストリ・クリーナーまたはファイル・ファイダーのようなツール画面をメインウィンドウのトップに常に定着することを強制します。たとえメインウィンドウをクリックし、集中しても変化はありません。

図５：Program directories がインストールセクションにより再規定することができます。

インストールセクションには実施すべき jv16 パワーツールディレクトリの情報が含まれます。ディレクトリが NTFS パーティションに位置されたら十分なユーザー権限が持つのを確認しましょう。

ディレクトリのパスを変更するとき、そのままのディレクトリを保全しようとしたら、ディレクトリの中身を新しい位置に手動でコピする必要がありますのでご注意ください。

一時データが Jv16 パワーツールの記憶機構のどこに保存されたのを認識できません。そういう場合、一時（TEMP）ディレクトリのデフォルトシステムがよく任用されます。デフォルトは「%TEMP%¥jv16PT_2008¥」です。そして、Jv16PT__2008 と呼ばれるサブディレクトリが作成できない場合、一時（TEMP）ディレクトリのルートに「%TEMP%\ by default.」が用いられます。

リレーショナルパスは、例えば「\Settings\」やなどの設定とプログラムのインストールディレクトリと関連します。例えば「C:\Program Files\jv16 PowerTools 2008」にプログラムがインストールされたら「\Settings\」が「C:\Program Files\jv16 PowerTools 2008\Settings」となります。

上級なセクション

図6：希望する日時スタイルを設定することができる。

このセクションは下記の機能が含まれます。

- 多機能のツールメニュー（File Tool's More Functions menu）－　表示機能（View function）がクリックされるとデフォルト表示ファイル（Default file viewer）が実行されます。そして、バックアップツールにあるのレジストリの内容も表示されます。デフォルト表示ファイルを変更することが可能ですが一部のファイルエディタ（file editor）が操作できなくなる恐れがあるのにご注意ください。次のコマンドライン application.exe ”file_to_be_opened.txt”for example notepad.exe “C:\readme.txt”を伴い、*Opening files*が必ずエディタにサポートしてもらえます。

- デフォルト・レジストリエディタ（*Default registry editor*）―　よくjv16パワーツールの機能に使用され、たとえばレジストリクリーナーの中の右クリックメニュー(*Open in RegEdit*)　は多くのひとつです。ただし、すべてのレジストリ・エディタがデフォルト・レジストリエディタに使われるわけがないから、ご注意ください。レジストリ・エディタはWindowsレジストリ・エディタと同様な手段で望まれたキーを開くべきです。それは簡単に検証されます。例えば、デフォルト・レジストリエディタ設定から希望するサードパーディ・レジストリエディタに変えるだけで、レジストリクリーナーの*Open in RegEdit*が働いているかどうかを検証できます。

- デフォルト日時書式（*Default date format*）－　jv16パワーツールで利用される日時書式を定義します。“DD・MM・YYYY、HH：NN”がデフォルト日時書式のスタイルです。MMは“月”で、NNは“分”と指定しています。リストの中に最も一般的な日時書式が含まれてますが自分なりの日時書式を作ることも可能です。

- フル・ロー・セレット（full row select）－　フル・ロー・セレットをクリックするとラインを選ぶことができます。このオプションが効かない場合、チェックボスにチェックをしてください。「選択するアイテム」をクリックすると逆に余計な情報が多く表示されてしまうため、この機能はソフトマネージャーまたはスタットアップマネージャーに呈示されません。

- フル・ローアンセレット（full row unselect）－　フル・ローアンセレットをクリックすると選択が削除されます。同様に、「選択するアイテム」をクリックすると逆に余計な情報が多く表示されてしまうため、この機能はソフトマネージャーまたはスタットアップマネージャーに呈示されません。

メンテナンス

図 7：jv16 パワーツールを管理するツールを提供する

こちらで以下のメンテナンスタスクが実行されることが可能です。

- Remove Translations　－　現在が使用されるファイルを除き、jv16 パワーツールにおける全ての翻訳ファイルを削除します。そして、翻訳ファイルは「**\jv16PowerTools\Languages***.」に保管されてます。
- Remove old snapshots は５ヶ月以上の古いレジストリモニタースナップショットを削除します。
- Remove old backups は５ヶ月以上の古いバックアップを削除します。
- Flush cache は jv16 パワーツールの中のキャッシュ、例えばファイル名キャッシュ、が手動で消去することができます。その後、再起動することが必要です。
- Remove temp files は jv16 パワーツール 2008 に作成された全ての一時ファイルを削除します。

警告：バックアップが作成されないから、変更したものを取り戻すことが不可能です。そのため、本機能の操作がよく理解しない限りご利用は遠慮ください。

セキュリテイ
図8：強力な機能への使用を制御する

本機能はパスワード保護装置と製品の制御装置を設定することができます。

以下にはセキュリティのオプションが提供されます。

- None・デフォルト設定－誰でも自由にアクセスすることができます。
- *Always demand a password when the program starts* －プログラムが起動される度、常にパスワードの入方を求めます。
- *Demand a password only when the normal GUI is started* － ノーマルGUIが起動される時のみ、パスーワードの入力が必要です。パスーワードがなしに自動タスクとプライバシー保護者を機能させることができます。
- ファイルやレジストリ項目やプログラムの設定を変更したり、編集したりする時のみパスーワードが必要です。

•

本機能を使用いただく前に、セキュリティに関する注意事項の章をよくお読みください。

バックアップ
図 9：簡単に製品のバックアップポリシーを設定できる

バックアップセクションはバックアップのについての作成する仕方を表示します。

バックアップポリシーセクション（*backup policy* section）はバックアップの作成を規定します。では、以下のようなオプションが提供されます。

- *Always create a backup before removing or modifying anything*とは、削除するおよび変更する度、常にすべての変更をバックアップすると指定します。
- *Always ask me whether I want a backup to be created.*とは、バックアップが作成する必要があるかどうか常にユーザーに問います。
- *Never create any backups とは決して*バックアップを作成しません。ただし、この機能を**推奨しません**。

バックアップ記述セクション（The *backup descriptions* section）はバックアップについての記述ファイルの作成方法を定義します。
下記のオプションが提供されます。

- *Generate the description automatically* ― 記述ファイルを生成する方法はツールの手段と違い、通常は最初選択されたアイテムのデータから生成します。
- *Generate the description automatically and display for editing* ― このオプションはあんまり明確しない自動生成されたの記述ファイルを検証します。
- *Always ask me for the description* ― このオプションはゼロからバックアップの記述ファイルを作成することができます。

バックアップ・リムーバブルオプション　－　正常な削除手段、または安全性が高いファイルワイプ手順、どちらの方法でバックアップファイルを消去するのを規定します。

「ファイルをワイプする」とはランダムデータとともに、ファイルの内容を数回以上繰り返して書き込んだら、ファイルの内容を再び再構造したり、復元したりする手がないと意味します。実際のデータ削除し方法は設定ツールの「ファイルワイパー」によって表示されます。

ファイルワイパー

図 10：希望するファイルワイパーの強さを調整できる

ファイルワイパーセクションはデータの上書き回数を規定します。上書き回数が多ければ多いほどが安全です。一方, 上書きする度に時間がかかるというデーメリットがあり、大きいサイズのファイルはさらに処理時間が必要です。

上書きの一連の処理手順：
1. ゼロビッツで上書きする
2. ワンビッツで上書きする
3. 希望する上書き回数を達するまで１と２を繰り返す
4. ランダムビッツで上書きする
5. 希望する上書き回数を達するまで４を繰り返す
6. ランダムデータ数 255 で、ファイル名またはディレクトリ名を上書きする
7. ディスクからデータを除去する

全部のファイルがよくディスクに書き込まれたのを確認するため毎回使用されたバッファのファイルが取り除かれます。

上記の機能はファイルツールのワイプ機能、ディレクトリツール、ディスクワイプツールや他のいくつかのツールによって用いられます。

ネットワーク機能

図 11：インターネットの使い方を設定する

本ネットワーク機能セクションは、jv16 パワーツールにおけるインターネットの使い方ポリシーを規定するため用いられます。本製品は以下のネットワークに依存する機能を支援します。

- ***レジストリクリーナー（Registry cleaner）***→　レジストリクリーナーにセキュリテイの更新プログラムをダウンロードします。そして、マックスクラフト (Macecraft) ソフトに更新された情報を送信せずに済みます。本機能は常に更新プログラムをダウロードし、実施の準備ができていない場合それを実行させます。この操作手順はウイルス対策ソフトの自動更新に似てます。
- ***レジストリマネージャ　＞　スタートプログラム***　→　コンピューターのシステムをはじめ、応用の情報を自動的にダウロードされます。本機能は各情報を得るためファイル名を送信しなければなりません。ただし、パスのファイルが送信されません。
- ***バックアップツール***　→　jv16 パワーツールを強化します。再保管として選択されたレジストリバックアップに関する情報を送信することによって働きます。しかし、この機能に使用許諾を与えば、すべてのデーダーを送信する前、常にユーザーの承諾を求めますのでご注意ください。本機能はファイルを送信しない、復旧として選択されたレジストリ・エントリーについての情報のみ送信します。この情報はレジストリクリーナーに安全な更新操作を生成するため用いられます。本機能に対しプライバシーの懸念を抱かれる場合、無理に使用いただく必要がありません。
- *Automatically check the availability of Live Support*　－　ライフサポートの使用可能性かを自動的にチェックすべきかどうかを設定します。主要画面のトップ画面にあるパネルアイコン、または Program Windows にあるすべてのヘルプメニューを通してライフサポート（*Live Support*）をアクセスすることができます。

Automatically check for program updates － 検証を行う時、プログラムの最新なバジョンの有り無しを問わず、アプリケーションが起動度、自動検証が行われます。新規プログラムを見つけられた場合、それに関する情報はユーザーに報告し、勝手に自動更新または自動アップデートする作業が実行されません。

これらのインタラクティブ機能を使用したい場合、下記の情報をマックスクラフト(Macecraft) ソフトに送信してください。

データ	使い方
オペレーティングシステム（0S）のバジョン番号 例: “5.1.0.2600”	送信されたデータはある一定の OS のみ関連し、例えばあらゆる安全更新は必ずしもすべての OS に対象するとは言えない。 そして、届けられた情報は統計分析のために使用され、例えば Windows ９８のサポート使用を中止すべきか、それは依然として広く用いられるかと分析する。
ソフトは試用版であろうかラインセンス版であろうかと指定します。 試用版の場合 “0” となる。	同時に圧倒的なアップデート依頼がある場合、サーバーは試用版の要求を無視することができ、ライセンスを購入いただけたユーザーばかり応対する。 統計分析も上記と同様。
製品名とそのバジョン番号 例: “jv16pt2008, 1.8.0.459”.	フォーマットとデータの正常的な応答を確認するため

それに加え、ライフサポート機能はユーザーのライセンスのシリアル・ナンバー を送信します。こうして、登録されていないユーザー、試用版を使ってるユーザー、またはテクニックサポートサービスを購入されていない購入者におけるライフサポート機能が無効になります。基本的はライフサポートサービスはすべてのユーザーに対象するがアクセス混雑な時のみ使用が制限されます。
HTTP ポロトコルが使われるため、送信された IP アドレスは当社のサーバーも受信できます。論理的に、ある一定の場合 IP アドレスでユーザーの正体を識別することができますが当社は決してユーザーの IP アドレスを分析し、保存することはしません。したがって、Macecraft ソフトに届けられたすべてのデータが 100％匿名で表示されます。

暗号化されないまま送信したデータは一般的なメールのように見えるが届けられたデータの整合性を保証するのにデータはデジタル署名となります。

個人情報保護に対する懸念があれば、インタネット機能を使用しないでください。本製品はそれを欠けても十分な実用性があります。ネットワーク機能が無効にされた場合、jv16 パワーツールは Macecraft ソフトにいかなる情報を送信しません。ファイアウォールを使えばそれを検証することができます

省略形

図 12：レジストリパス省略の方法を設定する

省略とは短くすること。ご覧のようにレジストリ・パスの中に「HKEY_CURRENT_USERS\Software\Microsoft\Windows\」長いレジストリがあり、jv16 パワーツール 2008 はそれをせいりゃくすることができます。
下記のようなオプションが提供されます。

- レジストリクリーナーの中にある長いレジストリパス名を略す
- レジストリファイダーの中にある長いレジストリパス名を略す
- レジストリ探索・置換の中にある長いレジストリパス名を略す
-

本製品は 2 つの略す方法を供します。

- *Abbreviate the root key* ― ルートキーのみ変更され、例えば「HKEY_CURRENT_USER」を略すと「HKCU」となります。
- *Also abbreviate other common parts of the registry path* ― すべてのレジストリパスを変更することが可能です。ただし、レジストリパスの情報を示すため、前者よりさらに短縮され、未熟練ユーザーに対しては読み取りにくい恐れがあります。

コメントを記入する

図 13：Age とコメントシステムの設定

コメントシステムはソフトマネージャ、スタートアップマネージャと レジストリマネージャにリストされるアイテムの上にコメントを記入することが出来ます。

Age システムはアイテムに“新規”または“古い”に目印をつけることができます。こうして最後に追加されたアイテムも速やかに検出されます。

上記の 2 つのコメント入力は Age システムのように右クリックメニューに応じられます。

環境設定保存

図 14：環境設定の保存

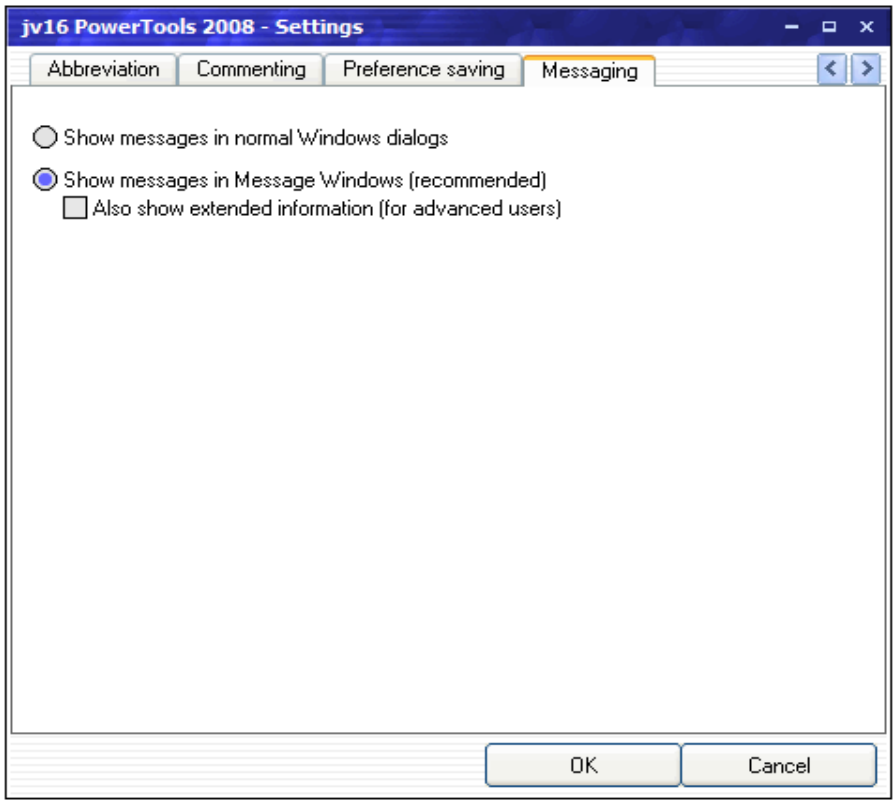
「環境設定保存」とは後日用のため、例えばファイルファイダの検索設定を保存することができます。そして、毎回ゼロから再調整する必要はいらず、複数類似な検索設定を実行することができます。

本機能を許諾すると、下記に示された図のよな小さいツールバーがある一定の jv16 パワーのツールに追加されます。

図 1. 本機能はある windows に上記のツールバー が追加される

このツールバーは下記の３つの簡単かつ取り扱いやすい機能を供します。

1. ドロップダウンリストから項目を選択することによって、例えばファイル・ファイダのサーチーオプションのような既存の環境設定を読み込めます。
2. 左上にある小さいディスクアイコンをクリックすることによって、作業中の環境設定を保存することができます。
3. 左下にある赤いアイコンをクリックすることによって、選択された既存ファイルを削除することができます。



I

図 16 : メッセージングの設定画面

メッセージング装置

メッセージング設定 – 頻繁にポップアップメッセージを受信する定番の Windows メッセージボックスを利用すべきかどうかを決定します。もしくは一行メッセージを示す専用のログ画面のも選択できます。

Jv16 パワーツールの非標準 Windows メッセージングシステムはデフォールトによって有効に設定され、推奨されるシステムです。当然、標準 Windows メッセージングダイアログを好むユーザーは、推奨システムの代わりに使ってもかまいません。

主要なツール

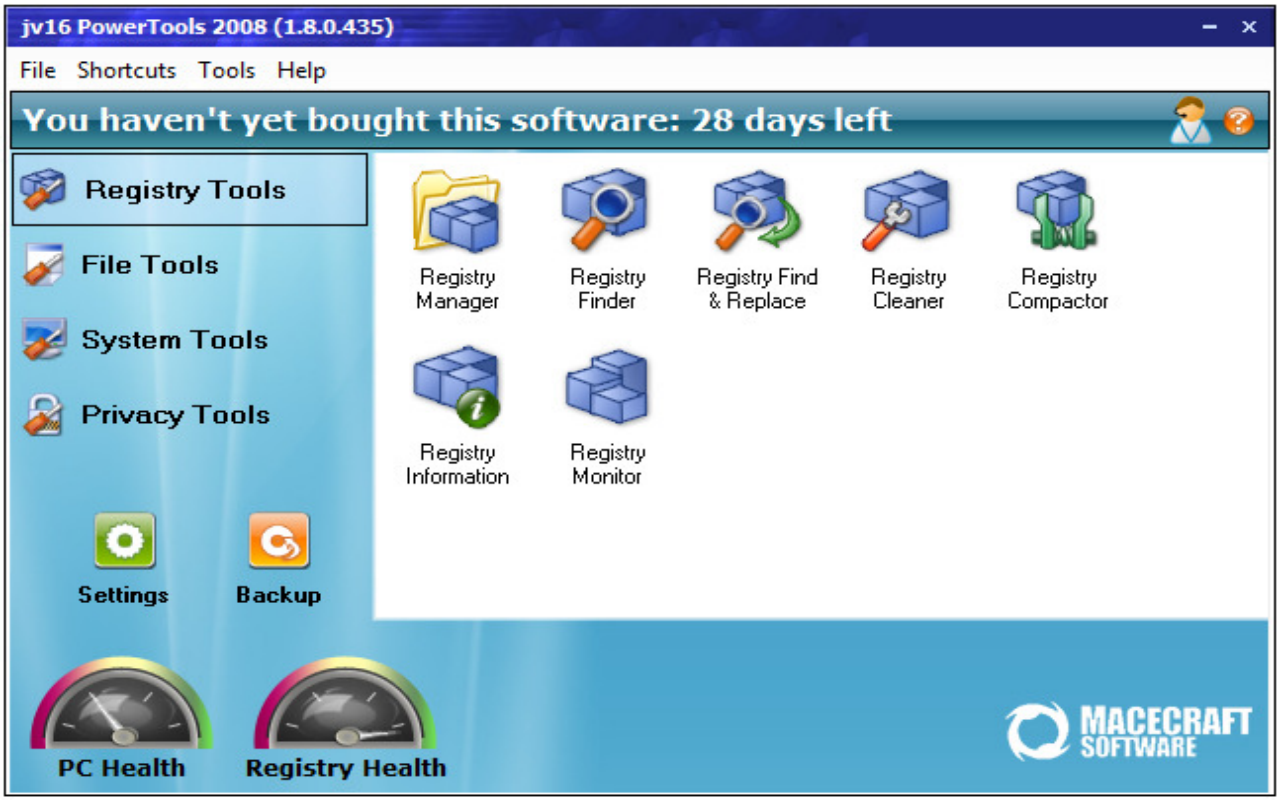


図 2. 主要なツールアイコンを表示するメインウィンドウ

メインウィンドウで jv16 パワーツールにおける主な機能をアクセスすることができます。上記のスクリーンショット（画像ファイル）はメインウィンドウのデフォルト表示によって取られた画面です。画面の変更は設定ツール機能で次のページに示されるスクリーンショットに切り替えます。

参考事項: メインウィンドウにファイルをドラッグ＆ドロップすることができます。ドロップされたファイルはファイルツールにリストされます。ドラッグされたディレクトリはディレクトリツールに表示されます。ファイルとディレクトリ両方をドラッグしたら、ディレクトリに関するすべてのファイルはファイルツールと合わせて表示される。

図 3：設定ツールを用い、メインウィンドウの画面のスタイルを切り替える.

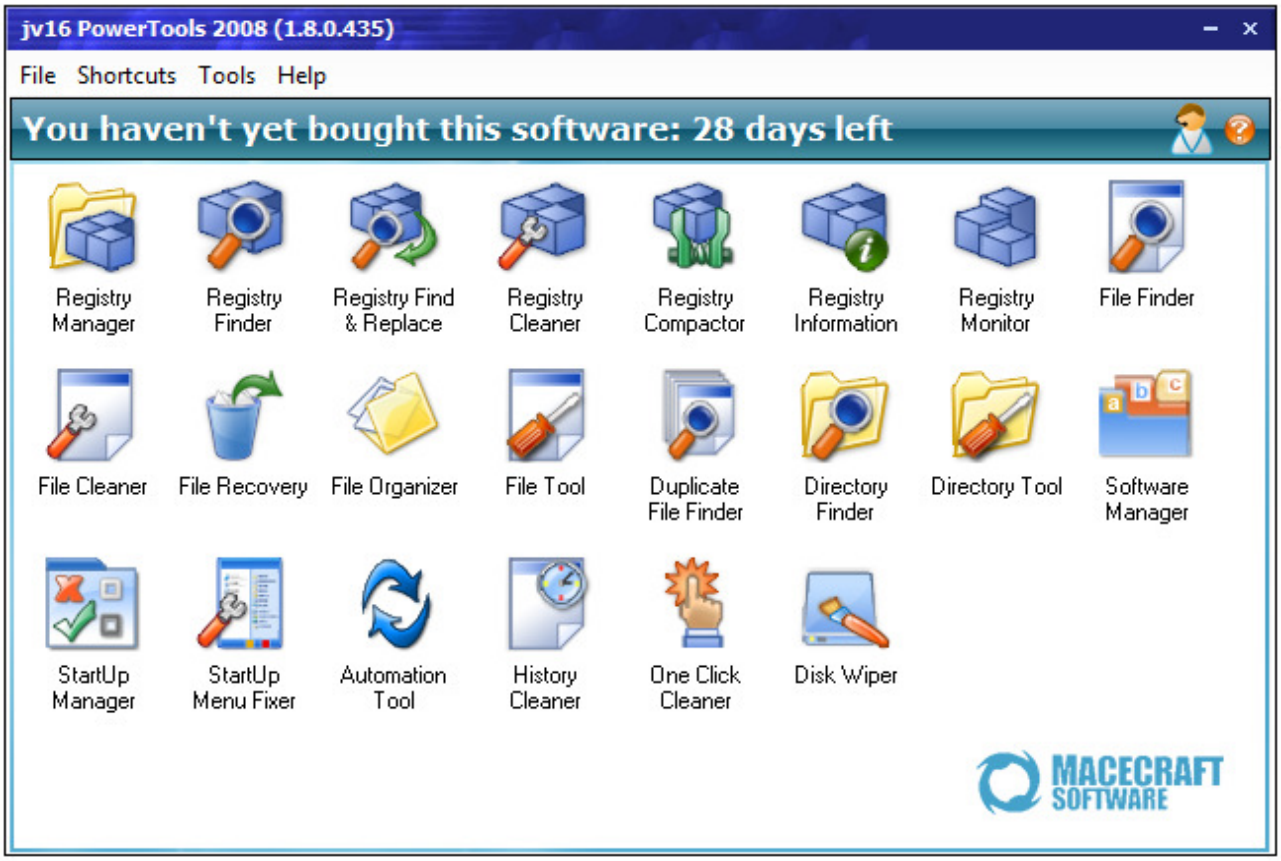


図 4. もうひとつの切り替え画面。同様に、設定ツールによって変更ができる。

ソフトマネージャー

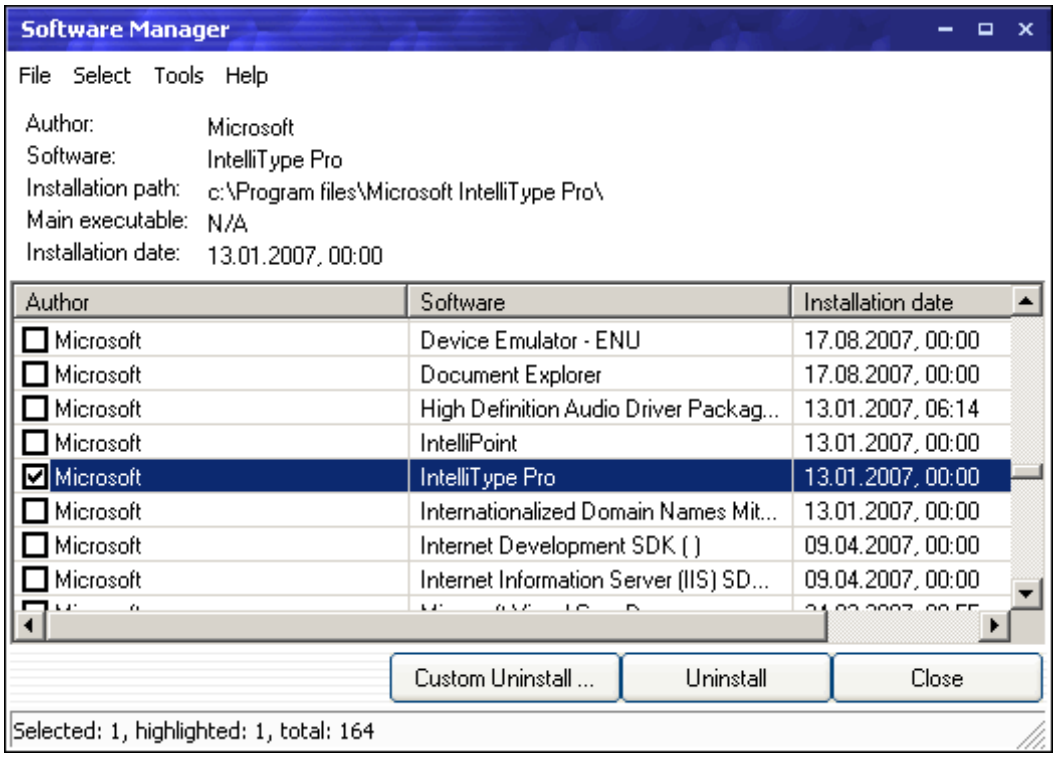


図 5. 本機能はインストールされた隠し記録を除去する

ソフトマネージャーは Windows のプログラムの追加と削除機能により高度に改良されたバジョンです。

Window のプログラムの追加と削除機能はインストールする次第情報が自動に登録される内部ソフトリストによって働く機能です。

このような登録は決して実行すべきとは言えません。そのため、インストールされたソフト記録はすべて追加と削除機能にリストされていません。

下記 3 つの方法が同時に実行されます。
1．追加と削除機能に使用される類似な内部ソフトリストを読み込む
2．経常用のソフトデータのレジストリを分析する
3．インストールされたソフトを検出するため、速やかに全てのハードドライバを分析する。

そのため本機能は Window の追加と削除機能、または他のサードパーティアプリケーションよりたくさんのアイテムを検出することができ、

一方、本機能は近似式を基づき働くため、いくつかのエラーが現れる可能性があり、例えば主要な実行形式ファイルの情報、またはあらゆるインストール日付が正しく表示されない恐れがあるのでご注意ください。それに加え、ソフトマネージャーはすべての情報を検出できないのが正常なことであり、そういう場合は《N/A》で表示されます。

許諾がなければ、アンインストールボタンはインストールパスのような自己展開形式を使用しません。ソフトにおけるあらゆる形跡を残さないように除去しようとしたらカスタムアンインストール機能を使用してください。

カスタムアンインストール

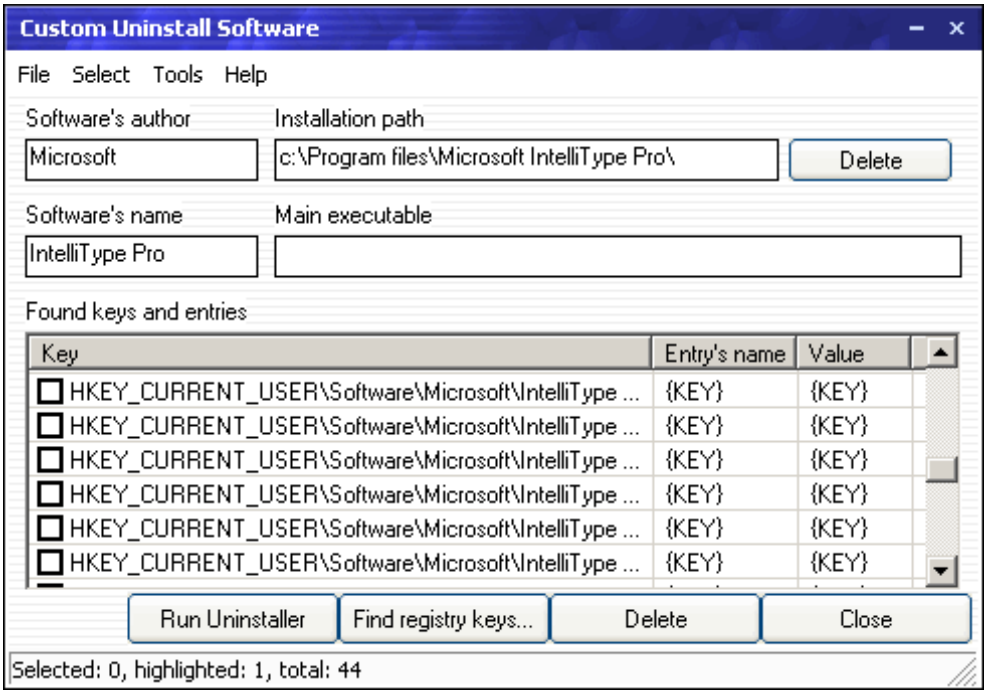


図 6.本機能は良く隠される隠しファイルを検出したり、除去したりすることができる。

ソフトマネージャーの中にカスタムアンインストールという機能がつき、インストールしたソフトの隠しファイルを見つけ出し上、除去することを応じます。それをアクセスするため、まずインストールされたソフトにあるソフトマネージャーのリストから１つのアプリケーションを選択して、右クリックしたらポップアップメニューが表示されます。この動作はカスタムアンインストールボタンも対応します。ただし、カスタムアンインストールボタンは１つ以上のアプリケーションに対する動作は不可能です。

完全にアンインストールするため下記のステープを従ってください。

1. 画面のトップに表示されるソフト名、インストールパス、および他の情報の正否を確認する。エラーがあったら、修正できるところまで修正してください。確信のない部分は空白してください。
2. そして、*Run Uninstaller* ボタンをクリックする。各製品のアンインストールアプリケーションが検出され、起動させてみる。何か見つけられた場合、画面の指示を従ってアンインストールをしてください。逆に、何も見つけられなかった場合、このステープを無視して次へ進んでください。
3. 次に、「*Search registry keys*」　をクリックする。サーチ操作が終了したら、常にレジストリキーのリストを検証してください。見つけられたレジストリ ENTRIES は当のソフトに関連すれば、全部を選択して画面の一番下にあ

る REMOVE ボタンをクリックする。確信がない ENTRIES にはチェックしないでください。

4. その後、インストールパスボックスの右上にある REMOVE ボタンをクリックする。このボタンは有効なパスがある限り表示されます。
5. 最後に CLOSE をクリックしたら作業が終了となる。

警告：ソフト著者名、ソフト名、インストールパス、その主要な実行ファイルの位置やなど供された更新情報を常に認証することを心に留めてください。関係ない情報が含まれると、当該ソフトに関係がない ENTRIES がリストされてしまうことがあり、それらを除去することが危険です。確信がない情報には、空白をしてください。このツールで“System”、“Browser”、“Icon”やなどの属名つきの ENTRIES を検出することは非常に危険となります。

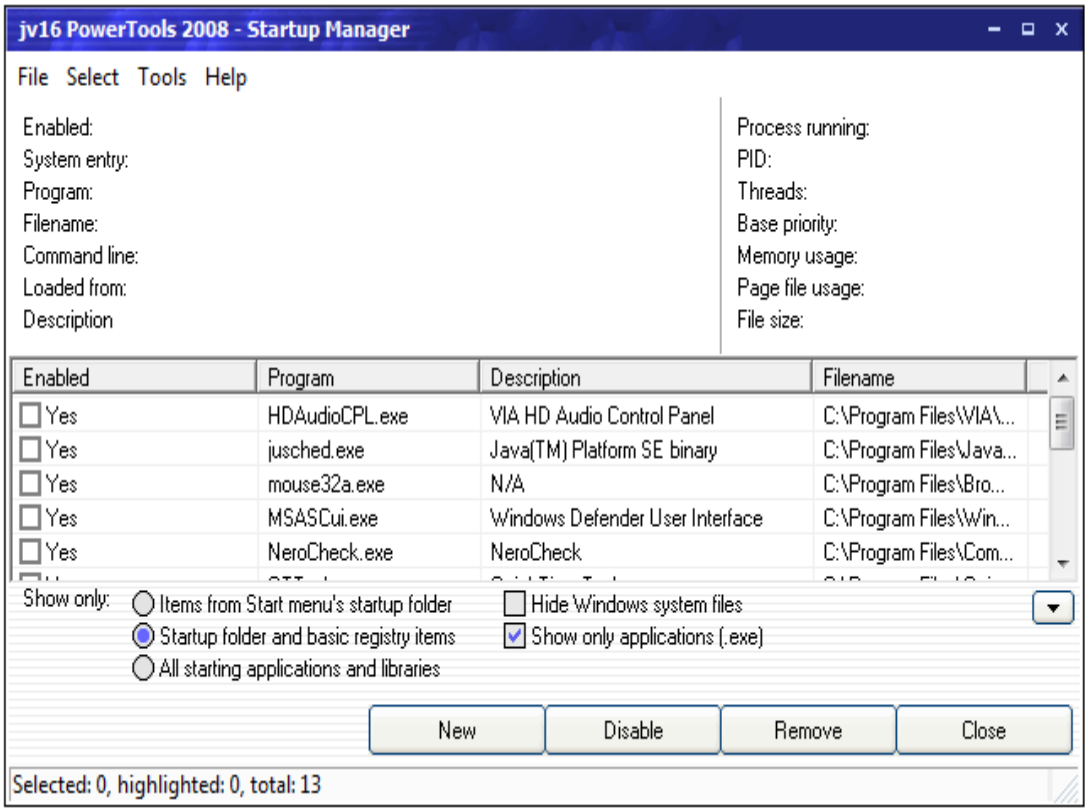


図 7. スタートアップマネージャーは起動時に起動するアプリケーションを制御することができる

本機能は自動起動として設定されたアプリケーションのリストを表示します。そして、アプリケーションを位置しておくため、*レジストリ*と *Windows* のスタートメニューを分析します。ただし、「*Win.ini*」のようなもう使われていないスタートアップ定義位置を分析しません。

あるアイテムをクリックすると、ソフトに関する情報がたくさん示されます。例えば、ソフトが現在実行中か否か、パスの情報および読み込まれた元やなどのを表示します。インターネットに接続されている場合、ソフトに関する情報さらに Macecraft　サーバーからダウロードでき、記述領域に示されます。逆に、インターネットに接続されていない場合、記述領域に実行可能ファイルから取り出した記述データが表示されます。

「自動起動するプログラム」は最速パソコンの実行速度を簡単に低下しますから、そのリストを短くするのを強く推奨しています。***Disable ボタン***を押すと、ソフトが無効になり、つまり自動起動しないように設定することです。後日再利用したい場合、是非***Disable ボタン***ご利用ください。***Remove ボタン***は類似な作業を行う上、一覧からソフトを削除することもできます。
New... ボタンを使用いただければ、リストに自らのソフトを追加することができます。

レジストリマネージャー

手動レジストリ修復ツールとメンテナンスにおけるあらゆる主要なツールが含まれています。ソフトをアンインストールしたり、以前除去されたレジストリエントリーの痕跡をきれいにしたり、シェル拡張子を編集したりすることができます。
*レジストリマネージャー*は Windows レジストリに対して使いやすいインターフェースであり、レジストリに関する専門知識がなくても操作できます。

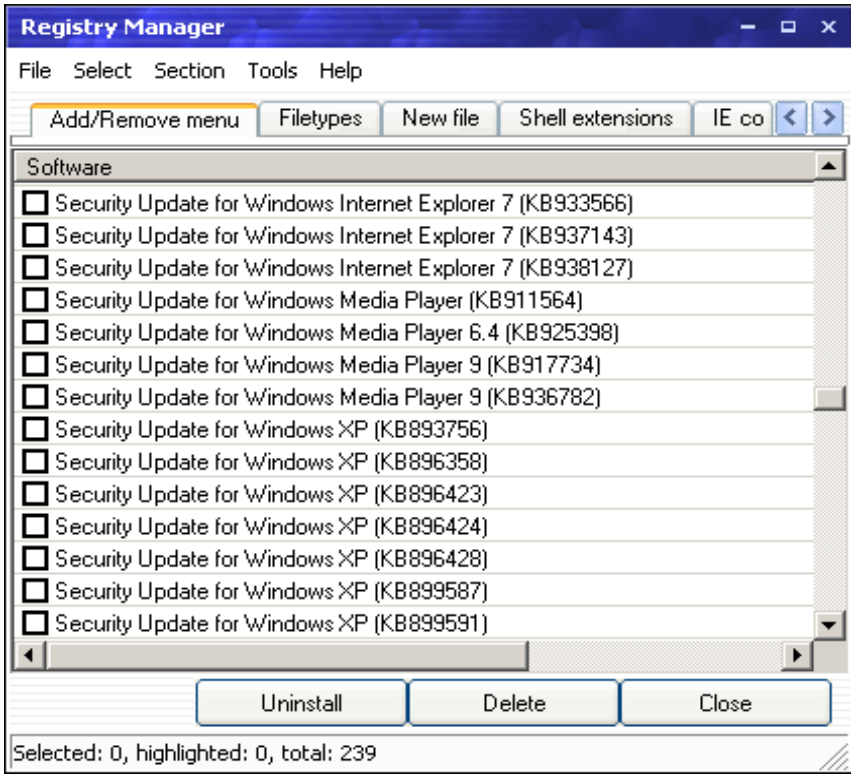


図 8. レジストリマネージャーのユーザーインターフェース

特徴・機能

追加と削除メニュー → Windows コントロールパネルにある「プログラムの追加と削除」にアイテムがあります。通常に「プログラムの追加と削除」に表示されない隠しアイテムも示されます。*Remove ボタン*は一覧からソフトを消去するだけであり、アンインストールではありませんのでご注意ください。一方、アンインストールしようとしたらは*アンインストールボタン*によって実行されます。安全性を考慮する方には、アンインストール作業を１つずつ行ってください。

ファイル・タイプ → あらゆる*レジストリ*のファイル・タイプが表示されます。例えば、「*.txt ファイル*」はテキスト形式ファイルであることを示ます。コンピュータから消されたプログラムのファイル・タイプの記録がそのまま残すことが一般です。

新規ファイル → *新規ファイルメニュー*を右クリックすると作成できるファイルタイプの一覧が示されます。このメニューはWindowsデスクトップを右クリックすることにより現れます。*右クリックメニュー*でシェル拡張子を取り除くこともでき、こうしたら後日のためエントリーが自動的に再作成されます。

.

シェル拡張子一覧 → 登録されたすべてのシェル拡張子が含まれます。シェル拡張子にはある一定のファイルタイプを実行する操作です。例えば、*Notepad*をダブルクリックするとテキストファイル (.txt) が表示されます。一方、*右クリックメニュー*を右クリックすると選択された印刷コンテンツを印刷することもできます。さらに、役に立たないシェル拡張子を除去することもできます。

IE コンテキストメニューの一覧 → あらゆる *Internet Explorer (IE)*におけるコンテキストツールが記載されます。任意にウエブページを右クリックするとコンテキスト拡張子が他の追加ツールのように*右クリックメニュー*に表示されます。ある一定のプログラム、例えば ***FlashGet*** はよくこういう形の新規エントリーを作成します。

•

Open With...メニュー → 本ツールは *Windows* が未知のファイルタイプを実行する時、一覧に示されるプログラムのリストを表示します。本ツールはWindows NT、2000、 XP、 2003、 2008 と Vista のようなNTをベースにするオペレーティングシステム（OS）のみ対象にします。

Search with メニュー → 本ツールは*スタートメニュー*にある検索機能のアイテム一覧を示ます。そして、必要ではないアイテムを取り外すこともできます。同様に、本機能はWindows 2000、XP、 2003、2008 と Vista のようなNT系のOSのみ対象にします。

レジストリクリーナー

レジストリマネージャーおよび***レジストリファイダー***が手動き式と半自動装置式である一方レジストリクリーナーの掃除ツールが完全自動化にされています。このツールは瞬く間に全システムを分析したら異常なアイテムを提示します。

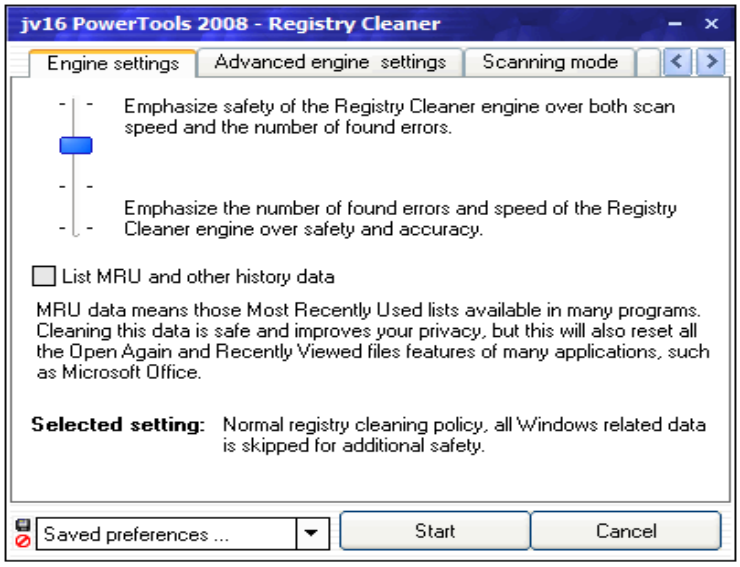


図 9. ***レジストリクリーナー****における主要なオプジョンのダイアログボックス*

起動時に、安全性を強調したいかどうかまたは最強モードに設定するかどうかを問われます。迷いがあれば、常に一番安全性があるスキャンモードを選択してください。

List MRU and other history data → *MRU（Most Recently Used、和訳：最近よく利用された項目）*と他の類似なデータがエラーとして表示されべきかどうかを定義します。こういうデータは決して異常なデータまたは廃棄されたデータとはいえないけれども、安全に除去されます。履歴に個人情報が入ってあるため、例えば最近プレーヤーしたビデオまたは最近編集した文書がプライバシーリスクの 1 つとみなします。

上級ユーザーには他のツールへの設定を変更することもできます。一方、正常ユーザーには、スタートボタンをクリックする前に指示された用意をしていただければ十分です。

Advanced Engine Settings → このタブでどちらのスキャニングモジュールを実行するかを厳密に定義することができます。手動で設定を変更するわけがないと思います。

Scanning Mode → ***レジストリクリーナー***は全部のデータをスキャンすべきか、あるいはよくエラーを発するデータのみスキャンすべきかどうかを定義します。同様に、手動式でこの設定を変更するわけが一切ありません。

Results Format → 本セクションには、***レジストリクリーナー***が jv16 パワーツール 2005 と 2006 のような簡単の一覧で見つけたアイテムをリストすべきか、あるいはデータの種類によって階層木構造式で示すべきかを定義することです。階層構造一覧を作成するのがやや遅いけれども、グループに関連するレジストリエラーを集結することにより、より優れる定着データが供されます。

Advanced Options は下記にある設定を供します。

- ***Fully automatic mode (推奨しません)*** → 完全に自動化モードはユーザーの許諾を問わず、見つけたアイテムが自動的に削除されます。このオプションの利用は**推奨しません**。

- ***Use as little CPU power as possible*** → コンピュータが取り込み最中に、***ファイルクリーナー***の操作はアイドル時間に限り実施できます。つまり、このオプションは CPU 実行権を最低に設定することです。

- ***Don't show items that would be automatically re-created***. → システム起動時に、あるいはある一定のアプリケーションを使用する時、いくつかのレジストリデータが常に再作成されます。このオプションは変更した後直ちに再作成されたエントリーであろうか、削除した直後に再作成されたエントリーであろうかを問わず、すべて無視することができます。

- ***Don't pop up the window after finished*** → このオプションは走査中の画面が最小化にされた場合のみ有効となります。最小化にしていただければ、デフォールトによって完了した画面が元にポップアップの形で戻します。このオプションによって画面のポップウップを無効にすることもできます。
-

Search Words（*キーワードを検索*）タブに走査のときに使わせたいキーワードを入力することができます。入力した後、*レジストリクリーナー*は検索一覧に一致するキーワードのレジストリエラーのみリストに示します。特定のソフトに関するレジストリエラーのみリストしたい場合、このツールで簡単にできます。

Ignore Words（単語を無視する）セクションに無視したい単語を設定します。***Ignore Words*** の一覧に記入した単語はすべて自動に無視されます。例えば、CANON のデジタルカメラが持つ場合、レジストリクリーナー走査作業を行うとき、それに関する*レジストリエントリー*をスキャンされないように、***Ignore Words*** 一覧に **CANON** を入力しておきます。

スキャンレポート

*レジストリクリーナー*の作業が完了すると、スキャンレポートが表示されます。このレポートは操作時間、検出されたアイテム数やなどいくつかの走査結果を図形で示します。

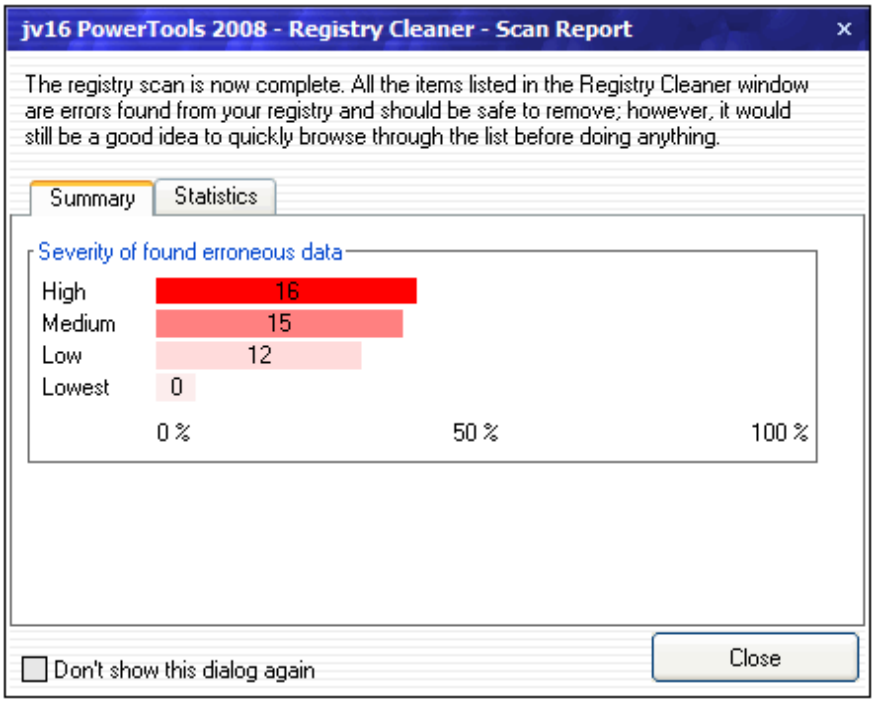


図 10.遂行された走査作業におけるレポートの概要のダイアログ

*スキャンレポート*には二つの特徴が付く、それは ***Severity of the found errors***（*エラーの厳しさ*）と ***System health indicator***（*システム健康指標*）機能です。***Severity of the found errors*** 機能は厳しさによって 4 つのレベルバーで表示され、見つけられたエラー数をレベルによって記録します。例えば、図 25 では「高い」のエラー数が 16 に対して、「中程度」が 15、「低い」が 12、「非常に低い」が 0、このように表します。

「厳しさ」はシステムにどのような影響を与えるかを指定します。下記の表がエラー厳しさの基準について説明します。失ったファイルか　使用されるコンポーネントに関するエラーメッセージを示し始めて、

厳しさ	システムへの影響
高い	このエラーはシステム問題またはユーザーレベル問題を引き起こすのが確実。代表的な問題としてシステムを起動するとき、またはシステムクラッシュするとき、誤りメッセージが現れてしまうこと。ユーザーレベルの問題だと、アプリケーション作業が中止される問題、失ったファイルか使用されるコンポーネントに関する誤りメッセージを示し始める問題が含まれる。
中程度	このエラーは問題を引き起こす可能性がある
低い	論理的に、このレベルのエラーはユーザーレベルにわずかの不便をかける。
非常に低い	このレベルのエラーは不便をかけない。または、影響なし。

「***Close***」ボタンをクリックするとスキャンレポートの画面を閉じることができます。今後のスキャンレポートの表示を中止したい場合「*Never show this dialog again* 」のチェックボックスにチェックを入力してください。

スキャン結果 Windows

スキャン操作が完了したら *レジストリクリーナー*のスキャン結果は *レジストリクリーナー*Window に示されます。示されたすべてのアイテムは異常なデータですので安全に削除することができます。

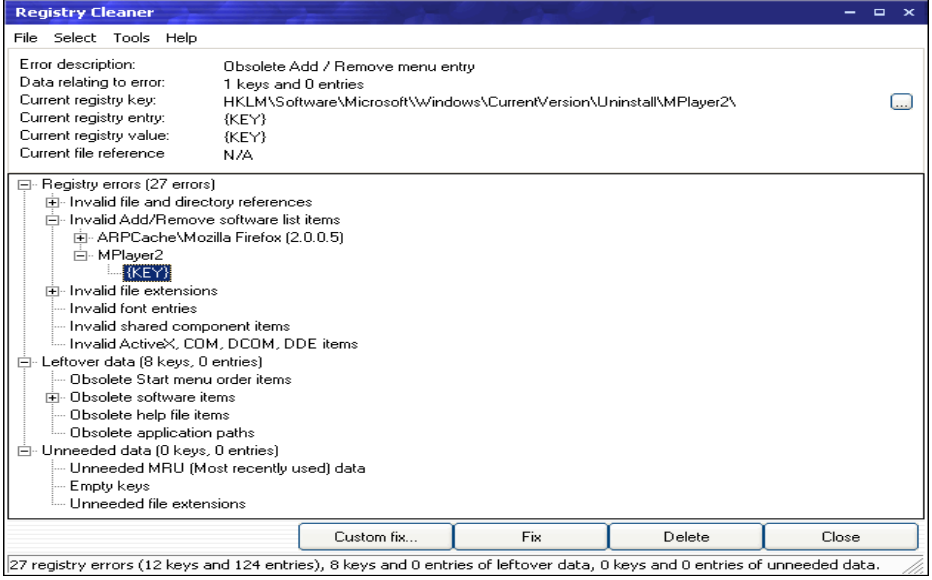


図 11. レジストリクリーナーによって作成された「エラーの一覧」である。

エラーを修復する

レジストリクリーナーの作業が完了後、次へ進むとして 3 つの選択があります。

1. エラーを削除する
2. エラーを修復する
3. カスタム修復機能で修復する

未熟なユーザーには、常に「*Fix*」ボタンをクリックし、エラー修復してください。こうしたらエラーが自動的に修復されるようにします。一方、修復必要がない異常なレジストリデータが除去されようにします。

時間の余裕があるユーザーにはカスタム修復ツールもご利用いただけます。

これを実施するため、***Select > All*** で（または **Ctrl+A** を押す）すべての項目を選択して、画面の一番下にある「*Custom Fix*」ボタンをクリックします。数秒後、ある修復ツールが現れます。このツールでは修復する手段を設定することができます。

.

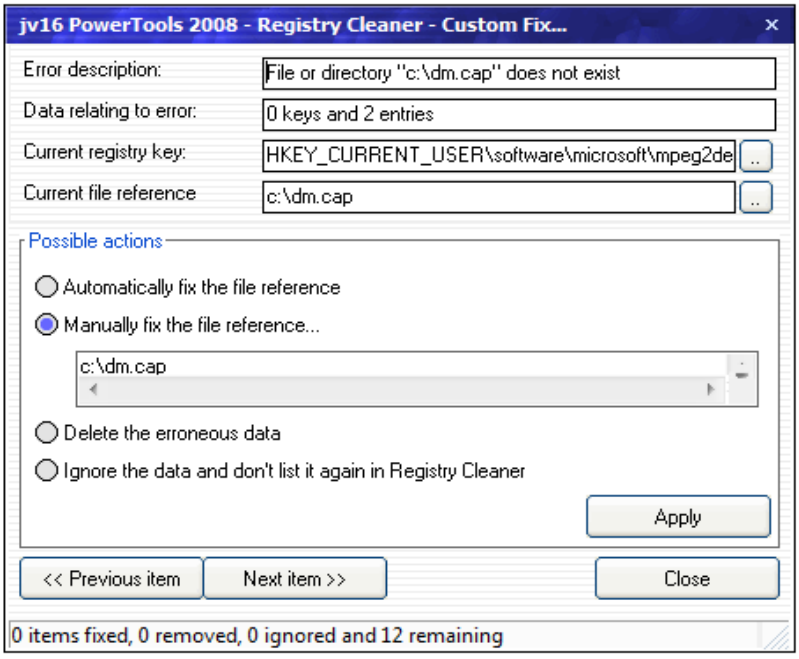


図 12： 見つけたレジストリエラーへの処理方法を設定することができる。

一般的なかつ簡単な修復ツールの操作法（図を参照してください）：できれば、「*Automatically select the best possible solution：自動的に最適切な処理方法を選択する*」を選択してください。その選択に任せたくない場合、「*Delete the item*」を選択して「OK」をクリックする。アプリケーションが自動修復する方法を検出できた時のみ「*Automatically select the best possible solution：自動的に最適切な処理方法を選択する*」が有効になる。

修復ツールでは上級者向けの修復処理方法も含まれています。例えば、「*手動で修復するツール*」 という機能があり、手動によって修正された異常なデータを直接にレジストリに差し込むことができます。ただし、この機能に対し高度な注意をしなければなります。一覧に異常ではないアイテムを発見した場合、「*Don't show this item ever again*」を有効にすれば、表示されたくないアイテムが二度と表示されません。

レジストリファインダー

*レジストリファイダー*を利用することにより、レジストリへの検索作業が速やかに、かつ簡単になれます。

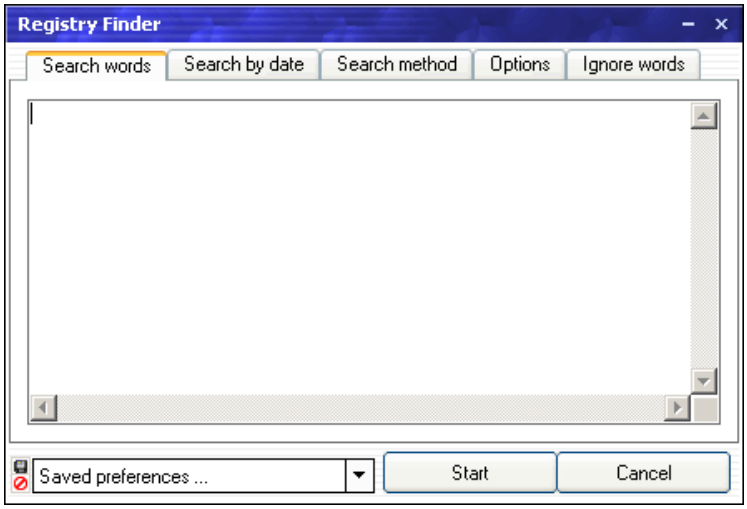


図 13. レジストリファイダーをとおし、レジストリにデータを走査することができる

走査の始めに、単一文字あるいは複数の単語を入力したら「スタート」をクリックしてくだい。*レジストリファイダー*にある他のセクションには検索方法を設するため上級的な設定ツールを提供します。

日付・時間によって検索することは、数日間前変更されたアイテムであろうか、ある期間内に変更されたアイテムであろうか、ある日付の前後に変更したアイテムであろうか、とにかく検出したいアイテムの検索範囲を絞ることができます。

注: 「スタート」ボタンが有効にする前、少なくとも 1 つの単語を入力せざるを得ない。そして、ツールの指示のとおりに設定されたかどうかを確認してください。

検索手段には検索方法を設定します。ご利用いただける検索手段が下記に示されます。

- 一般的な、大文字小文字区別しない、ルーズな検索
- 大文字小文字区別しないワイルドカード検索
- Perl の正規表現検索
- 人工知能検索

それぞれ異なる検索手段における詳細な操作情報には次のページまで参照してください。

検索手段

各検索手段の働きの違いに関しては下記の表にいくつの例があります。サーチ例文として下記の文章が使われました。

> “Then arose old Wainamoinen, with his feet upon the island, on the island washed by ocean, broad expanse devoid of verdure; there remained he many summers, there he lived as many winters, on the island vast and vacant, well considered, long reflected, who for him should sow the island, who for him the seeds should scatter.”

検索手段	検索キーワード	最初に検出されたのは
一般	The	“Then arose old...”
一般	wain	“Wainamoinen, with his...”
ワイルドカード	the	“Then arose old...”
ワイルドカード	?rose	“Then arose old...”
ワイルドカード	*it*	“With his feet...”
ワイルドカード	???nam*	“Wainamoinen, with his...”
ワイルドカード	up??	“upon the island...”
Perl の正規表現	Then arose	“Then arose old Wainamoinen...”
Perl の正規表現	sum+ers	“ many summers, There...”
Perl の正規表現	moinen$	“Then arose old Wainamoinen...”
Perl の正規表現	f[ea]et	“With his feet upon the island...”
人工知能（AI）	arise	“Then *arose* old Wainamoinen...”
人工知能（AI）	oceans	“ the island washed by *ocean*, Broad...”
人工知能（AI）	reminds	“There *remained* he many summers, ...”
人工知能（AI）	seed	“Who for him the *seeds* should scatter...”

注意要点

- ワイルド検索を使用する際に、任意のワイルドカード文字 （これ「“*”」または 「“?”」）を入力しないと、キーワードの前後に「*」が自動に追加されてしまいます。例えば「“the”」が「“*the*”」となりますのでご注意してください。
- Perl の正規表現検索は大文字小文字区別する手段です。
- 人工機能（AI）検索は言語に頼らず、あらゆる言語に対して同様な働きを行います。

「Perl RegExp」遂行のため Jv16 パワーツール 2008 は Luu Tran の TPerlRe コンポーネントを使用します。「TPerlRe」は「perlre.dll」のためのデルファイラッパーで、Philip Hazel の PCRE (Perl Compatible Regular Expression)パッケージの win32 ポートです。

Quick Perl の正規表現の案内

記号	用例	解説・定義
+	sum+ers	１つかそれ以上の文字とマッチする。例えば、用例とマッチするのは「summers」、「summmers」、「summmmmmmers」やなどがある
.+	sum.+ers	「summers」、「sumXers」とマッチする。一方、「sumers」とマッチしない
.*	sum.*ers	「summers」、「sumXers」、「sumers」とマッチする
[]	jo[ha]n	括弧内にある１つかそれ以上のアルファベットとマッチし、用例の結果としては「john」と「joan」がある
^	^ne	任意の string とマッチ。用例の場合、ne で始まる単語とマッチ、「need」、「needle」、「necessary」やなど
$	ing$	語尾の string とマッチする。用例の場合、 ing で終わる単語とマッチ、「interesting」、 「using」、「patterning」やなど
?	to?l	ゼロか１つの文字とマッチする。用例とマッチするのが「tool」、「tol」がある

Perl の正規表現に関する推薦文献がオンラインで見つけます。

- http://www.anaesthetist.com/mnm/perl/regex.htm
- http://www.weitz.de/regex-coach/
- http://etext.lib.virginia.edu/services/helpsheets/unix/regex.html
- http://www.regularexpression.info/

レジストリ探索と置換

レジストリのデータを取り替えるために非常に便利なツールを提供します。
このツールが正しく扱われる例ときたらやはり手動でドライブレターまたはパスを

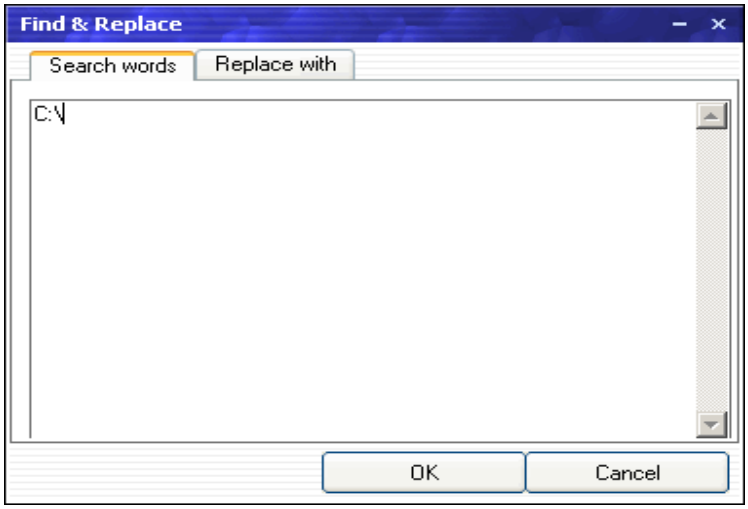


図 14.本ツールにより、直接レジストリにあるデータを取り替えることができる。

修復するしかありません。例えば、システムに新規の HDD（hard disk drive）を追加したばかりの時、Windows によってすべてのドライブレターが編集されてしまい、「D:\ドライブ」に位置されたはずのプログラムが「E:\ ドライブ」に移動され、今までインストールしてきたプログラムが働けなくなりなます。
.

この問題を解決するため、「*search word*」に「D:\」を記入し、「*Replace with*」に「E:\」を入力したら、「*Start*」をクリックします。レジストリへの変更はユーザーの同意がなければ、決して自動に実行されないことを心に留めてください。

注意事項: すべての必要なデータが入力される前、「Start 」ボタンを押しても作業が始まらない。それを有効にさせるため、少なくとも 1 つの探索単語に対し 1 つの置き換え単語が必要となります。このポリシーは jv １６パワーツール 2008 にあるすべてのツールに対象します。

日付順の検索機能を利用いただければ、古いエントリーをスッキプすることができ、指定された日付またはある時期の項目のみサーチします。このツールはある場合非常に役にたちます。

このオプションセクションの中に上級者向けのオプションも含まれます。はじめに、どちらの部分やどちらのルートキーが分析される必要があるかを選択します。

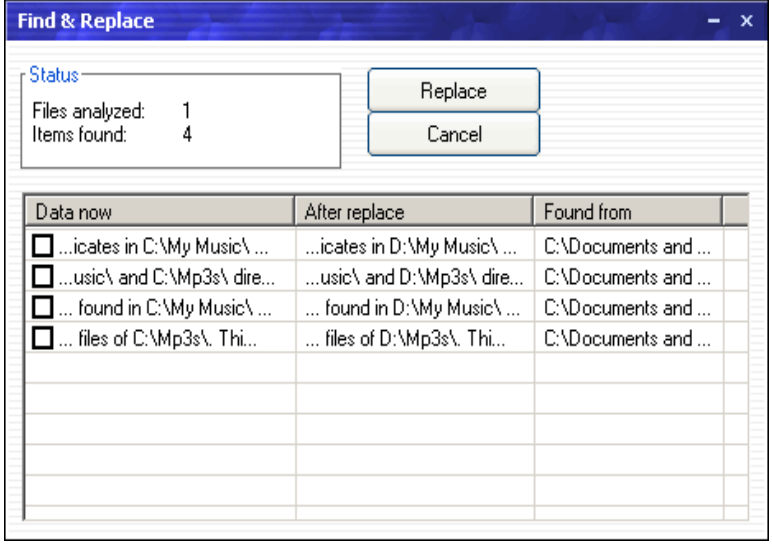


図 15. 作業が開始する前の確認画面

上級オプションセッションには以下のオプションが含まれます。

Use as little CPU power as possible → コンピュータが取り込み最中に、*レジストリ探索と置換*への操作はアイドル時間に限り実施できます。つまり、このオプションは CPU 実行権を最低に設定することです。

- ***Analyze value names*** → システムにおけるレジストリ内のデータがキーと値が一組として保存され、いわゆるファイルのようにファイル名とファイルの内容を含めて保存しておくことです。このオプションはデータ名をばかり分析せず、データ名とデータを合わせて分析します。

Analyze value data → このオプションはデータの値を分析することを指示します。

Don't pop up the window after finished → このオプションは走査中の画面が最小化にされた場合のみ有効となります。最小化にしていただければ、デフォールトによって作業が完了した後の画面を元にポップアップ形式で戻します。このオプションではそのポップアップを無効にします。

Ignore Words（単語を無視する）セクションには無視したいキーワードを指定することができます。分析が実施される際して、記入されたキーワードに関するレジストリキーとエントリーが自動に無視されます。

レジストリ探索・置換の結果 Window

この結果は異なる window に表示されます。（上記の図を参照してください）

このツールは作業の開始前、取替え後データの様子を示します。

このとき、一覧に目を通しながら、すべての項目が変更したい項目であることを確かめてください。もし一覧に消されたくない項目があれば、それを右クリックして、「*Remove*」を選択すれば解決できます。Windows の *レジストリエディタ*（略：RegEdit）で関心ある項目を開くこともでき、その項目を右クリックして、「*Open in RegEdit.*」を選択します。

一覧に示したすべての変更項目について異議がなければ、「*Replace*」をクリックすると変更作業が実行されます。

レジストリ・モニター

*レジストリ・モニター*は*レジストリシステム*内に引き起こすことを制御したり、監視したりする容易な方法です。このツールはレジストリの現状をスナップショットに作成され、そのスナップと後に追加された新規プログラムのを比較する用例があります。

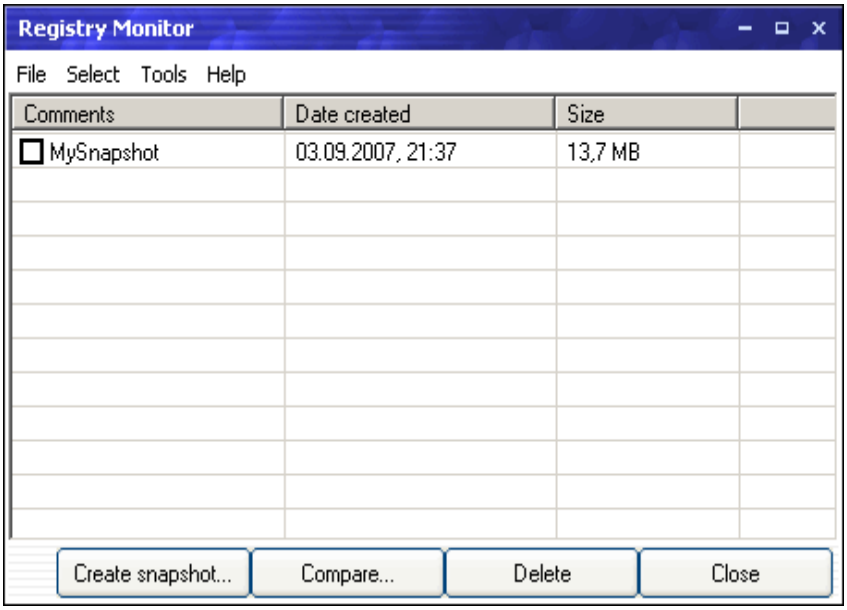


図 16. レジストリモニターに作成されたレジストリ現状のスナップショットの一覧

*レジストリ・モニター*のメインウィンドウには、現在のレジストリスナップがすべて示され、それらを管理することもできます。それより多くの機能は右クリックメニューに含まれています。

*レジストリ・モニター*内の比較機能は以下のレジストリにおける変化を検出できます。

- レジストリキーを取り外したこと
- レジストリエントリーを取り外したこと
- レジストリエントリーの値を変更したこと
- 新規のレジストリキーを作成したこと
- 新規のレジストリエントリーを作成したこと

新規スナップを作成する

「*Create a snapshot*」ボタンをクリックすることにより、新規スナップが作成されます。

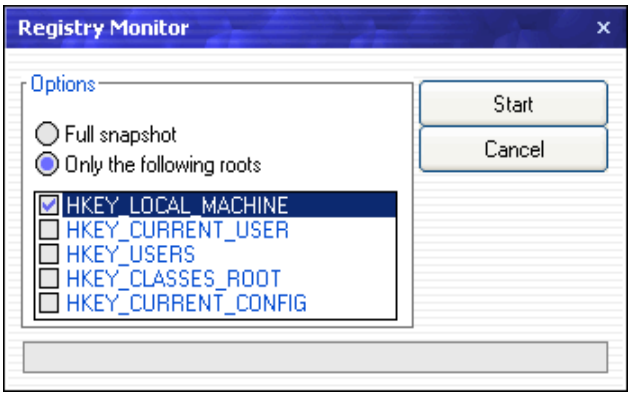


図 17.新規スナップを作成するオプション

組み込まれたいルートキーが多くほど比較する作業が遅くなるため、「HKEY_LOCAL_MACHINE」と「HKEY_CURRENT_USER」だけ選択すべきです。これらのキーが頻繁に使われます。

ルートキーを選択したら、「*Start*」クリックし、作業を完了するまで数秒を待ちましょう。実施作業が終了したら、画面が自動に閉じられ、「レジストリモニター」一覧に新規なスナップが示されます。

スナップを比較する

古いスナップと現状のレジストリを比較するには、レジストリモニターのスナップ一覧にあるスナップを選べ、「compare」をクリックすれば比較ができます。

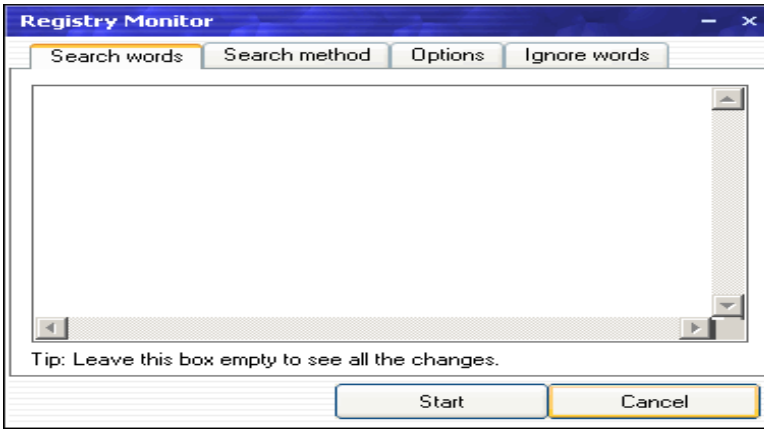


図 18 レジストリスナップを比較する機能の設定画面

ある一定のアイテムの変化についてのみ知りたい、例えば最近インストールしたアプリケーションのキーに絞りたい場合「単語を検索機能」を使用すべきです。
この操作により全体のプロセス速度が大幅に上げられます。

検索手段には使用できる検索手段が含まれます。それに関する詳細な情報は*レジストリファイダー*の章をご参照してください。

このオプションセクッションには以下のオプションが含まれます。

Ignore MRU entries（*MRUエントリーを無視する*）→　頻繁に編集されて、必要ではない*レジストリエントリー*をすべて無視すると指示します。

Ignore system entries（*システムエントリーを無視する*）→　頻繁に編集されたあるシステムレジストリを無視するように指示します。このオプションを無効にしたら、プロセス全体の速度が低下させ、余計な情報が結果画面に表示されてしまいます。

「***Start***」ボタンをクリックするとプロセスが起動されます。この比較プロセスを以下の４段階で実施されます。

1. レジストリシステムにある最近のデータを含め、新規の一時スナップを生成する
2. 選択されたスナップと作成されたばかりの一時スナップを比較する
3. 一時スナップを取り外す
4. 比較して検出した変化を表示する

比較した結果

*レジストリモニター*に検出してきたばかりの*レジストリ*変化を新規画面で示します。

この結果画面には、「*Remove*」ボタンで追加された項目を取り外したり、または任意の変更された項目を初期スナップの様子にとり戻したりすることができます。

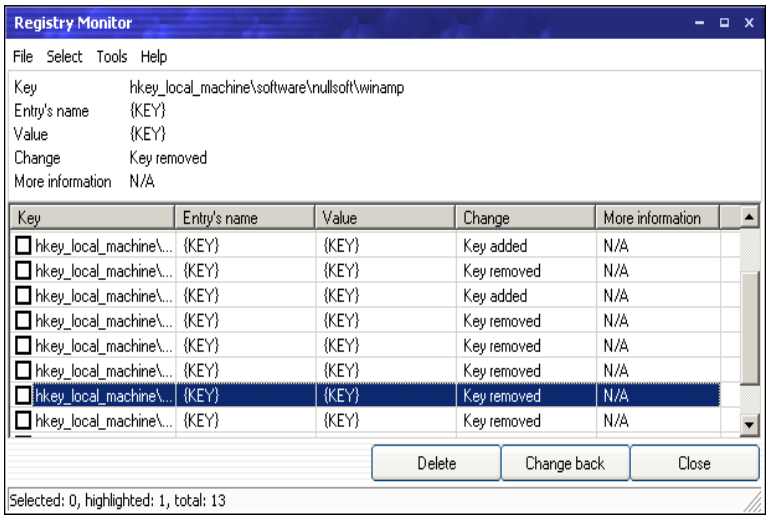


図 19.検出されたレジストリ変化一覧

元に戻したい項目をすべて選択し、「*Change back*」をクリックすると両側のスナップを入れ替えます。
しかし、深刻なシステムエラーを引き起さないように、「*Change back*」機能を慎重に取り扱ってください。

レジストリ圧縮機

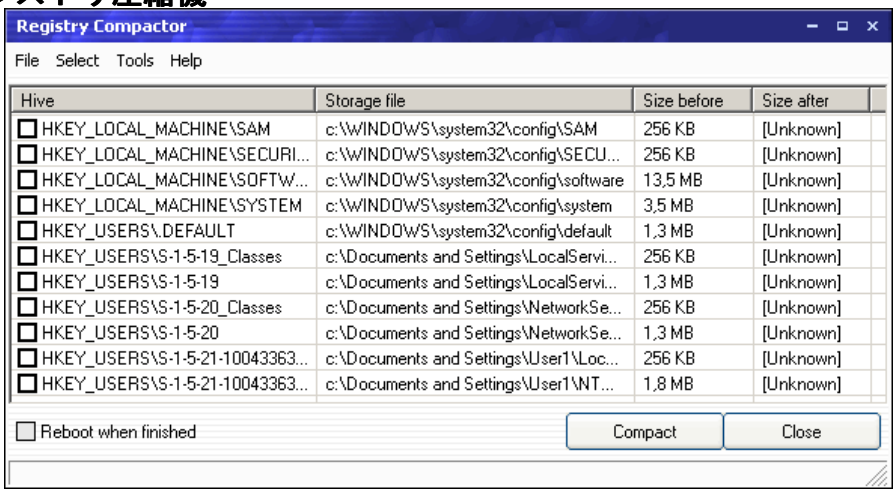


図 20. レジストリ圧縮機により、ファイルのサイズを縮めることができる

レジストリ圧縮機には、レジストリのデータを取り消せずに簡単にサイズを縮めることができます。要するに、スクラッチファイルから全部のレジストリ構造を復元できる上、すべての空きスペースとレジストリ構造から取り出された余計なデータを消去するのが根本的な作業です。

ハードドライブスペースの要求に応じ、システムのレジストリを格納するためにレジストリを圧縮し、両方のラム（RAM）の容量を縮小します。

「registry compression」と「registry defrag」は***レジストリ圧縮機***の別称で、前者も後者も同様なプロセスを実行します。

レジストリの情報ツール

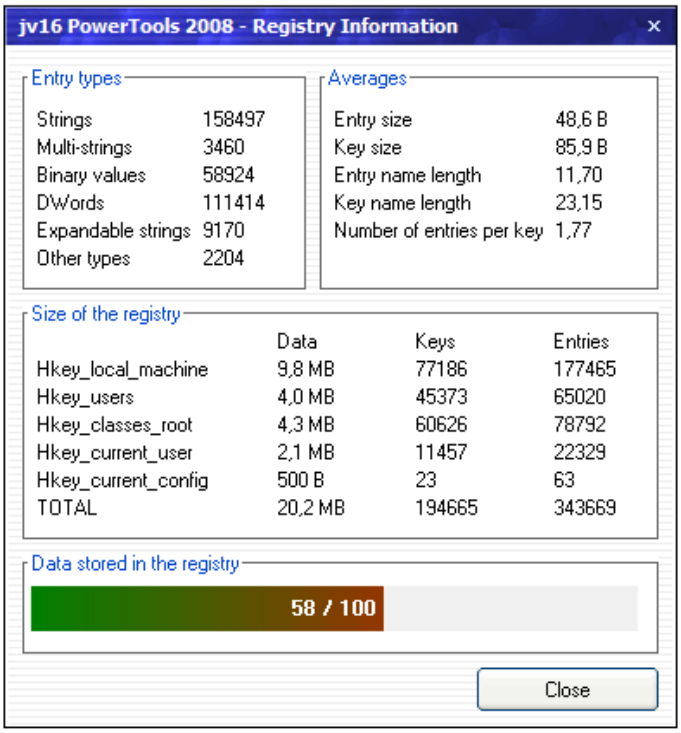


図 21. レジストリの統計情報を示すのはレジストリ情報ツールである。

レジストリ情報ツールはレジストリに有するデータの情報について展示ます。

実際にレジストリ内に格納されているデータおよびその占領領域のサイズを知らせ、上級者向けのツールです。

レジストリ情報ツールに記録してあるレジストリの容量情報は***レジストリ圧縮機***との相違があることに注意してください。***レジストリ情報ツール***はレジストリに有するデータの容量を記録する一方で***レジストリ圧縮機***はデータを格納できる容量を記録します。

「*data stored in the registry*」インディケータにはレジストリに有するデータの容量を示し、もちろん低い指標のほうが好ましいです。指標数はレジストリが掃除されるとともに劇的に下げられ、使用されたオペレーティングシステム（OS）も指標数に影響を与えます。例えば、最清潔なインストール装置といわれる Windows Vista は一度もきちんどきれいにされたことがない Windows XP よりデータが多いことは事実です。

ファイルファインダー

あるファイルを移動したい場合、***ファイルファインダー***が役に立ちます。ファイル検索方法はいくつがあり、ファイル名とその拡張し、ファイルのサイズとその作成情報、変更した日時、最近使用した日時のいずれかの組み合わせで検索できます。

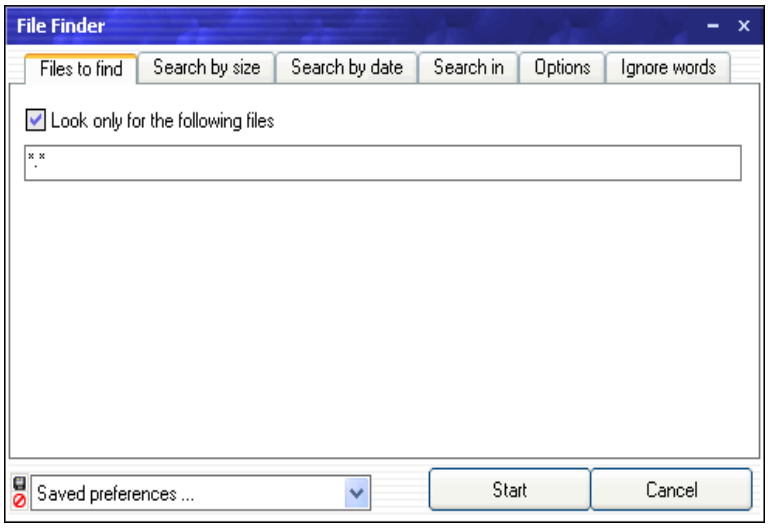


図 22. ファイルファインダーのユーザーインターフェス

Files to find セッションに 1 つかそれ以上のワイルドカード記号、あるいは探したいファイル名を入力できます。例えば、テキストファイル（.txt）を探したい場合、「*.txt」を入力し、ログファイルの場合は「*.txt; *.log」を入力して検索してもらいます。その上、jv16 パワーツール 2008 は否定ワイルドカードというツールも提供しています。例えば、Readme ファイルを除いてテキストファイルを探したいときにワイルドカードが「*.txt; -readme.txt」になります。

Search by size セッションには、探したいファイルのサイズを詳しく指定します。例えば、100KB 以内のファイルを探したい場合、「*Look only for files of specific size*」と「*Files that are*」のチェックボックスにチェックすべきです。そして、ボックスの下に「*About the same size as*」を選択したら、すぐ横にあるボックスの空欄に 100 を入力します。最後に既存のリストから「KB」を選択します。

About the same size as とは、変更したいサイズの 5 パーセント前後のファイルを対象して検索すると定義します。例えば、探したいファイルは「about・約」100KB と指定したら、このツールは 95KB から 105KB までのファイルをリストしておきます。

「***Search by date***」とは、作成日時、最後にアクセスした日時、最近更新した日時のいずれかの指定日時を絞って検索が行われます。
オプションセッションには以下のオプションが含まれます。

- ***Use as little CPU power as possible*** → 「*CPU パワー使用率最低にする*」とは、コンピュータが取り込み最中に、***ファイルファインダー***の操作はアイドル時間に限り実施できます。つまり、このオプションは CPU 実行権を最低に設定することです。
- ***Skip deep directory structures to improve speed*** → 「*速度をあげるためディレクトリ構造をスキップする*」とは、オリジナルなパスから 4 つかそれ以上のディレクトリ

があり、それらをスッキプするように指示します。このオプションを有効に設定し、「C:\」からファイルを検索すると指示したら、このオプションは「C:\Windows\」、「C:\Windows\System32\」と「C:\Windows\System32\etc\」のを検索する一方、「C:\Windows\System32\etc\drivers\」あるいは任意のサブディレクトリへの検索はしません。

- ***Skip system directories to improve safety.*** → 「*安全性を向上するためにシステムディレクトリをスキップする*」とは、システムディレクトリ（「C:\Windows」デフォルトにより）、システム設定ディレクトリ（NT 系のみ、「C:\Documents and Settings\」デフォルトにより）、あるいはそれぞれのサブディレクトリのいずれかのファイルやサブディレクトリを表示しないようにします。
- ***Don't pop up the window after finished*** →「作業完了後のポップアップ画面を禁止」のオプションはスキャン最中の画面が最小化にされた場合のみ有効となります。最小化時に、作業が完了したら、デフォルトによって完了画面が元にポップアップしてきます。無効に設定することもできます。

Ignore Words（単語を無視する）セクションには、無視したい単語かキーワードを設定することができます。任意の指定された単語は分析するファイル名やディレクトリと一致した場合、それらに関する結果は一切表示しません。

ヒント: 「単語を無視する」で検索されたくないディレクトリを除くこともできます。例えば、「C:\」と「C:\Windows」があり、「C:\」のディレクトリのみ検索したい場合、「Select from section」 に「C:\」を入力する同時に「Ignore Words section」に「C:\Windows」を入力します。この方法は jv16 パワーツール 2008 におけるツールによく使われています。

Jv16 パワーツール 2008 は***ファイルツール***機能を用い、***ファイルファインダー***と***ファイルクリーナー***で検出されたすべてのファイルを表示します。この***ファイルツール***には他の機能もたくさん提供します。このツールに関する詳細の情報は取扱い説明書の「**ファイルツール**」章をご参照してください。

ファイルクリーナー

ファイルクリーナーで一時ファイルの痕跡や古くなったファイルを簡単に見つけられます。ただし、取り外せるファイルへのタスク認証作業が非常に大変、かつ複雑のため、見つけられたファイルを消去することは勧めません。作業が始まる前、常に一覧をブラウズしておきましょう。

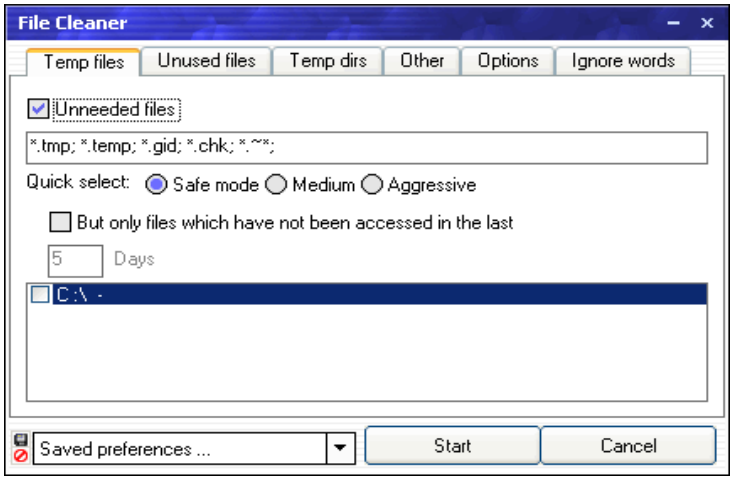


図 23. この機能で不要なファイルを除去される。

ファイルクリーナーを用い、違うファイルタイプのファイルも見つけます。

以下にはその主要な機能について紹介します。
「*unneeded files*」（和訳：*不要なファイル*）検索機能　→　ファイル名のみ分析します。

「*quick select*」（和訳：簡易選択）機能　→　安全に取り外せる既定のファイル名・拡張子が記録されてあります。さらに、「*But only files which have not been accessed in the last...*」（和訳：*最近アクセスされてないファイルのみ*）のチェックボックスにチェックをしたら、機能の安全性が向上させることができます。

「*empty files*」　*（和訳：空きファイル）*→　空きファイルを検索します。

「*unused fonts*」　*（和訳：不用なフォント）*→　過去 30 日以上使われていない*システムフォントディレクトリ*にあるフォントをすべて検出して示す機能です。

「*Listing of all files from the computer's temp directories*」（和訳：*コンピュータ（PC）の一時ディレクトリすべて表示する）*→　システム一時ディレクトリの内容が全部表示できます。そして、「*But only files which have not been accessed in the last..*」　*（和訳：最近アクセスされていないファイルのみ）*機能を有効するとともに、現時点において使用されるファイルを表示できません。

「*Listing of all files that have not been used and/or modified in a while*」（和訳：ある一定期間に使用・変更されていないファイルをすべて表示する）→　これらのファイルを除去しようとしたら、慎重に実施してください。

「*Listing of unused shared DLL and OCX files* lists all unused system files.」（和訳：未使用

の共用 DLL と OCX ファイルおよびすべての未使用システムファイルを表示する）
→　この機能は「最近使用したファイルの日時」や他の類似なテクニックを使わずに、直接にシステムから未使用システムファイル一覧を取り出すため安心に使えます。

下記には***ファイルクリーナー***のオプションについて紹介します。
・***Fully automatic mode*** →　「完全に自動モード」とは、検出したファイルを自動的に除去することです。ただし、このオプションへの使用は**推奨しません**。

・***Use as little CPU power as possible*** →「*CPU パワー使用率最低にする*」とは、コンピュータが取り込み最中に、***ファイルクリーナー***の操作はアイドル時間に限り実施できます。つまり、このオプションは CPU への実行権を最低に設定することです。

・***Skip deep directory structures to improve speed*** →「*速度をあげるためディレクトリ構造をスキップする*」とは、オリジナルなパスから４つかそれ以上のディレクトリがあり、それらをスッキプするようにすることです。このオプションを有効に設定し、「C:\」からファイルを検索すると指示したら、「C:\Windows\」、「C:\Windows\System32\ 」と「C:\Windows\System32\etc\」のを検索する一方で、「C:\Windows\System32\etc\drivers\」あるいは任意のサブディレクトリへの検索はしません。

・***Skip system directories to improve safety.*** →　「*安全性を向上するためシステムディレクトリをスキップする*」とは、システムディレクトリ（「C:\Windows」デフォルトにより）、システム設定ディレクトリ（NT 系のみ、「C:\Documents and Settings\」デフォルトにより）、あるいはそれぞれのサブディレクトリのいずれかのファイルやサブディレクトリを表示しないようにします。

・***Don't pop up the window after finished*** →「作業完了後のポップアップ画面を禁止」のオプションはスキャン最中の画面が最小化にされた場合のみ有効となります。最小化時に、作業が完了したら、デフォルトによって完了画面が元にポップアップしてきます。そして、無効に設定することもできます。

分析したいドライブを指定することもできます。ただし、すべてのドライブを分析するのは確かにより多い情報が提供されますが、量がありすぎると検索作業が遅くなるのにご注意してください。

Ignore Words（単語を無視する）セクションには、無視したい単語かキーワードを指定しておくことができます。指定された任意の単語が分析するファイル名やディレクトリのと一致した場合、それらに関する結果は一切表示しません。

ヒント:「単語を無視する」を用い、検索されたくないディレクトリを除くこともできます。例えば、「C:\」と「C:\Windows」があり、「C:\」のディレクトリのみ検索したい場合、オプション に「C:\」を選択し、「Ignore Words section」に「C:\Windows」を入力します。この方法は jv16 パワーツール 2008 におけるツールによく使われております。

Jv16 パワーツール 2008 は*ファイルツール*機能を用い、*ファイルファインダー*と*ファイルクリーナー*で検出されたすべてのファイルを表示します。この*ファイルツール*には多くの特徴があります。このツールに関する詳細の情報は取扱い説明書の「ファイルツール」の章をご参照してください。

ファイルリカバリ

削除されたファイルは実はHDD（ハードディスクドライブ）から除去されず、ファイルの占用スペースは“空き”と記載され、後日に上書きすることもできます。除去したファイル、削除して回復したファイルやなどのが展示されますが、システムから完全に取り外せません。

Files to find → 「*検索したいファイル*」とは、一覧のファイルと一致すべきパタン、

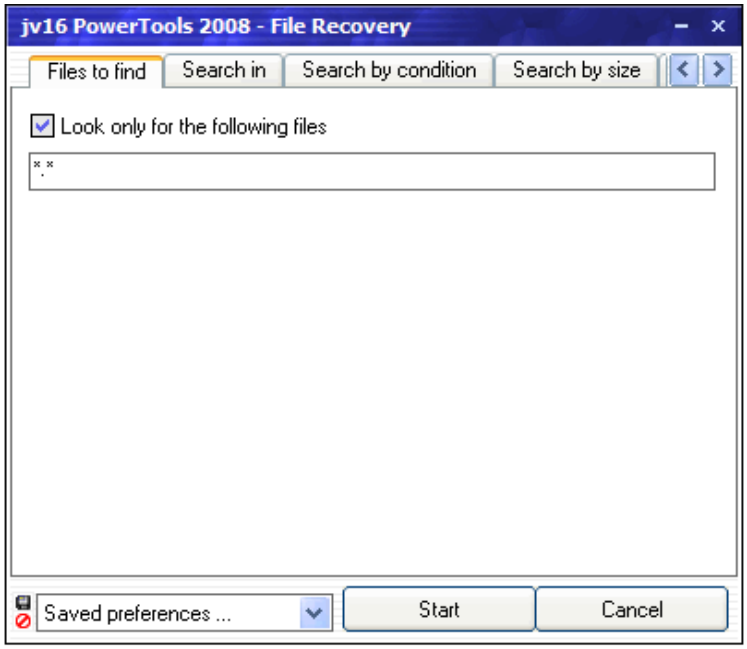


図 24. ファイルリカバリで除去したファイルを回復する

または検索したいパタンを絞って入力すること。

Search by condition → 「*条件で検索する*」とは、ある一定の確率の復旧できるファイルのみ示すべきかどうかを設定することです。例えば、95%の復元率があるファイルのみリストすることができます。

Deep Scan → 「*ディープスキャン*」は、一部新しいデータに上書きされたファイルをスキャンと復旧することを試みます。 この作業は一般的なスキャンより時間がかかるため、明確な動機を持つ上操作してください。

Ignore Words（単語を無視する）セクションには、結果一覧に含まれない検索単語を設定します。

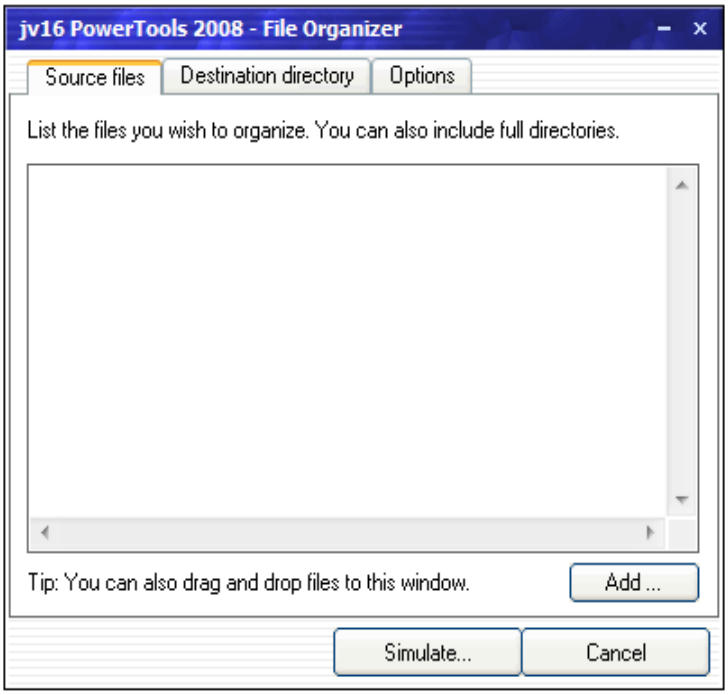


図 25：大量のファイルを管理できるファイル管理部

ファイル管理部

ファイル管理部には、ファイル収集を管理するために計画され、それぞれのサブディレクトリのファイルを簡単に管理する機能が置かれます。例えば、常にファイルを「C:\Downloads」に保存するダウロードマネージャを使用する場合、ディレクトリがまたたくに乱れてしまいます。***ファイル管理部***なら手軽にファイルを整えます。

あらかじめ、管理したいファイルを設定します。Windows Explorer、マイコンピュータのいずれかからファイルをドラッグ＆ドロップして設定し、またはツールの追加機能で設定することもできます。あるいは、「C:\Downloads」のような完全のディレクトリパスを入力しても設定できます。ダウロードされた音楽ファイルを「C:\mp3\」に保存しておきたい場合、前もって保存先を設定しておくべきです。

次に、「*Simulate...*」をクリックして、推奨ディレクトリ構造が作成されるまで少々待ちましょう。「*Apply*」をクリックしないとファイルの移動やコピーができないことに注意してください。

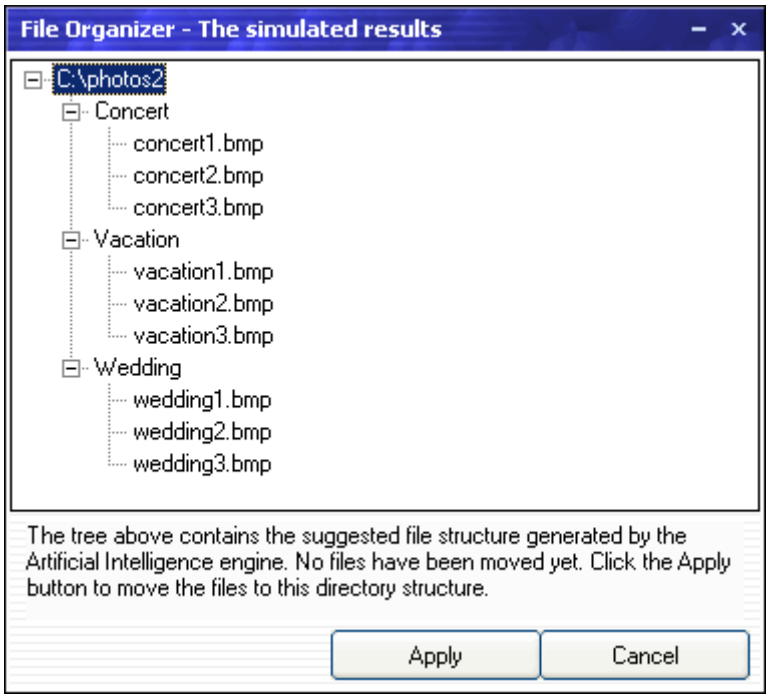


図 26. ファイル管理部によって作成された推奨ディレクトリ木構造

通常に、生成したディレクトリ木構造は完璧な構造とはいえなません。しかし、ファイルをドラッグするだけで簡単にサブディレクトリから他のディレクトリへの編集ができます。また、新規ファイル構造へのコピー・移動されるのを防止するため、キーボードの「Del」ボタンによって推奨ツリー構造にあるファイルを消去することもできます。

模擬結果に同意すれば「*Apply*」をクリックし、指定されたディレクトリにディレクトリ構造が作成されます。つきまして、この新しいディレクトリにファイルが持ち込まれたりコピーされたりします。

重複ファイルファインダー

重複するファイルや同一のコンテンツがあるファイルを検出するには、優れてて明確な特徴が持つツールが必要です。***重複ファイルファインダー***は複製ファイルを検出するために設計された非常に簡単かつ使いやすいなツールです。

このファインダーはトリプル最適化され、ビットごとに分析する装置を使用します。つまり、ファイルが 100%同一であることを確信するためファイルのコンテンツをビットごとに分析しておきます。

すべての重複ファイルが安全に取り除けるわけがないことを常に心に留めてください。したがって、この機能への使用は「ドキュメント」、「音楽ファイル」や「ビデオファイル」に関連するファイル収集・複製ファイルを検出するための使用のみ推薦します。

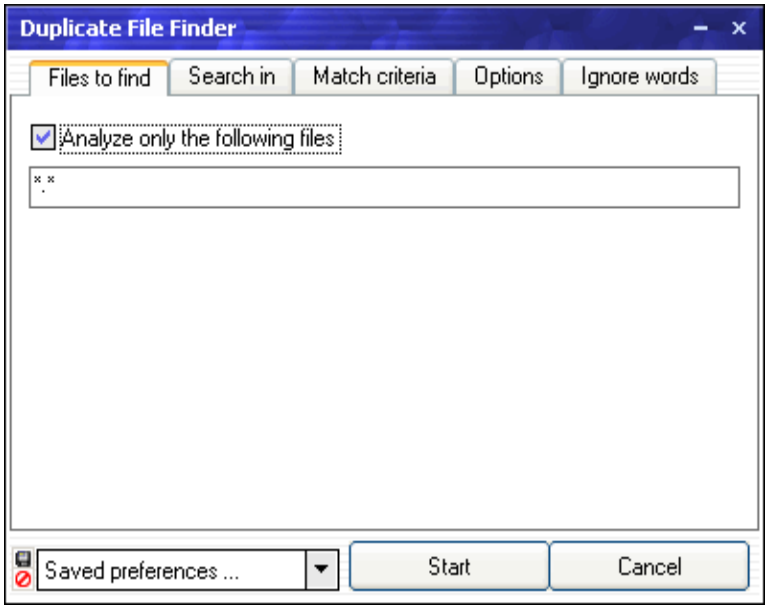


図 27. 重複ファイルファインダーは簡単に複製ファイルを検出できる

Files to find → このセクションで分析したいファイルを設けます。デフォルトは「*.*; -*.exe; -*.dll; -*.ocx; -*.sys; -*.vxd;」であり、つまり機能はファイル(*.*)ばかりを分析する一方でアプリケーション(*.exe)、システムライブラリ(*.dll)およびシステムファイル(*.ocx, *.sys, *.vxd)への分析はしません。この作業により安全性が増えます。

Search in → このセクションで分析したいディレクトリを設けします。ただし、分析の処理手順が行われる際に、ファイルの種類を問わず、とにかく大量なシステム資源やたっぷりプロセッサ時間が必要です。したがって、一括でハッドディスクを分析することはさらに時間がかかります。

本機能には下記のオプションを提供します。

- ***Use as little CPU power as possible*** →「*CPU パワー使用率最低にする*」とは、コンピュータが取り込み最中に、*重複ファイルファインダー*の操作はアイドル時間に限り実施できます。つまり、このオプションは CPU への実行権を最低に設定することです。
- ***Skip deep directory structures to improve speed*** →「*速度をあげるためディレクトリ構造をスキップする*」とは、オリジナルなパスから４つかそれ以上のディレクトリがあり、それらをスッキプするようにすることです。このオプションを有効に設定し、「C:\」のファイルを検索すると指示したら、「C:\Windows\」、「C:\Windows\System32\」と 「C:\Windows\System32\etc\」のを検索する一方で「C:\Windows\System32\etc\drivers\」あるいは任意のサブディレクトリへの検索はしません。
- ***Skip files larger than 100 MB to improve speed*** → 「*100MB 以上のファイルをスッキプする*」とは、大きいサイズのファイルを除いて分析したらパフォーマンスの速度が向上されます。
- ***Disable cross-drive checking to improve speed*** → 「*検索速度を上げるためクロス・ドライブを無効する*」、「C:\My Music\」と「C:\Mp3s\」 ディレクトリに重複ファイルを検出すると設定してある場合、この機能を有効にしたら、「C:\My Music\」と「C:\Mp3s\」をつき合わせて検出されたファイルを分析しません。このツールによって、スキャン速度が大幅に向上されるに反しある重複ファイルが見逃されます。
- ***Skip system directories to improve safety*** **.** → 「*安全性を向上するためシステムディレクトリをスキップする*」とは、システムディレクトリ（「C:\Windows」デフォルトにより）、システム設定ディレクトリ（NT 系のみ、「C:\Documents and Settings\」デフォルトにより）、あるいはそれぞれのサブディレクトリのいずれかのファイルやサブディレクトリを表示しないようにします。
-
- ***Don't pop up the window after finished*** →「作業完了後のポップアップ画面を禁止」のオプションはスキャン最中の画面が最小化にされた場合のみ有効となります。最小化時に、作業が完了したら、デフォルトによって完了画面が元にポップアップしてきます。そして、無効に設定することもできます。
-

Ignore Words（単語を無視する）セクションには、無視したい単語かキーワードを指定しておくことができます。指定された任意の単語が分析するファイル名やディレクトリのと一致した場合、それらに関する結果は一切表示しません。

-

ヒント: 「単語を無視する」を用い、検索されたくないディレクトリを設定することがます。例えば、「C:\My Music\」と「C:\My Music\Backups\」があり、「C:\My Music\」のディレクトリのみ検索したい場合、検索ボックス に「C:\My Music\」を入力する一方、「Ignore Words section」に「C:\My Music\Backups\」を入力します。この方法は jv16 パワーツール 2008 におけるツールによく使われております。

ファイルツール

ファイルツールは、jv16 パワーツール 2008 にある多く強力なかつ取り扱いやすいツールの 1 つです。このツールが Windows Explorer を取替えるよりも、むしろ Windows Explorer ができない作業を実行したいために設計されたツールです。

ファイルツールにアクセスするには、*ファイルファインダー*、*ファイルクリーナー*のいずれかを使用すべきです。また、jv16 パワーツールの主要画面にファイルをドラッグ＆ドロップし、ファイルツールにあるファイルが自動に解放されます。

根本的に、**ファイルツール**のユーザーインタフェースはファイルの一覧です。コラ

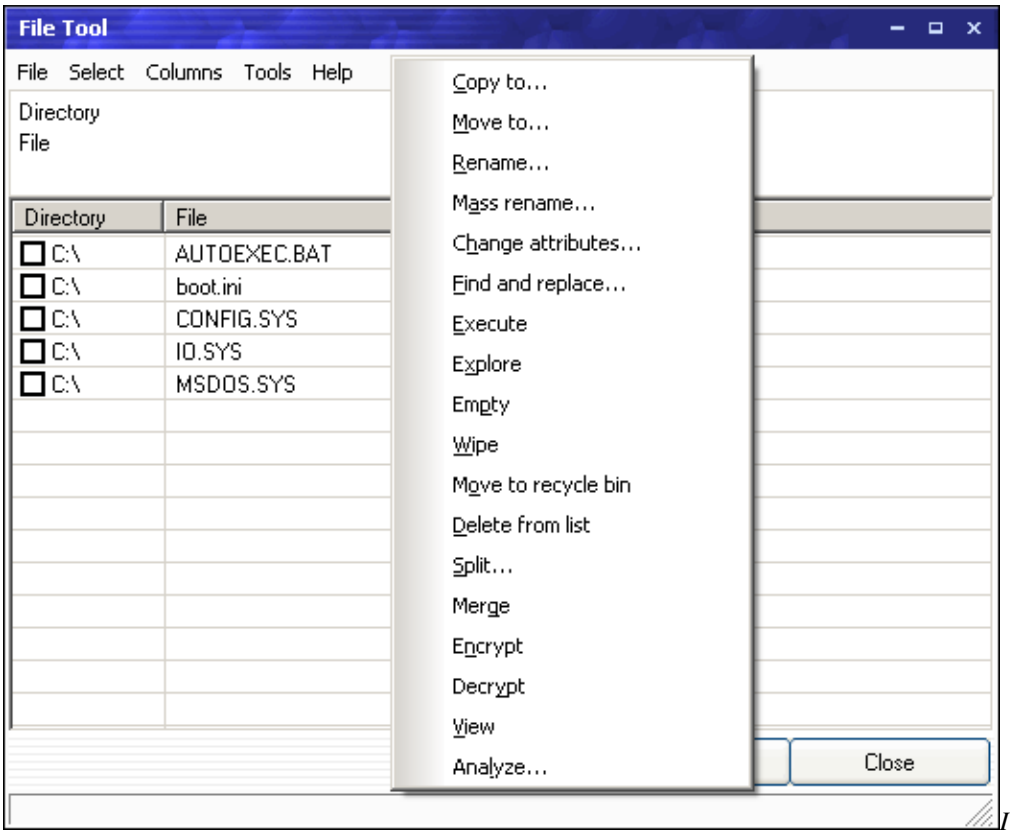


図 28：それぞれのサイズに伴いファイルが示される。

ムメニューにさらにファイルの情報が表示されます。

ファイルツールには、ファイルのサイズ、作成日時や属性などの一般的な情報を示すことができます。その上、実行可能ファイルや MP3 ファイルを抜粋することもできます。さらに、それらの CRC、 SHA1 または MD5 を速やかに計算してチェックサムもできます。

「***More Functions***」ボタンをクリックしたら他の機能が表示されます。ただし、1 つか 2 つ以上のファイルを選択しなかったらいくらクリックしても無駄です。

以下には「***More Functions***」ボタンが提供している機能について紹介します。
Copy to → 選択されたファイルのコピーを作成し、送り先に送信します。
Move to → 選択されたファイルを送り先に移動します。
Rename → ファイル名を変更します。新しいファイル名を入力すべきです。
Mass Rename → 複数のファイル名を一括に変更することができます。詳しくは【大量リネームツール】の章をご参照してください。
Change attributes → 選択されたファイルに属性を加える・消去することができます。詳しくは【ファイル属性ツール】の章をご参照してください。
Find & Replace → ファイル内のデータを検索し、他のデータに取り替えることができます。この機能は*レジストリ検索・置換*のように働きます。詳しくは、【ファイル検索・置換】の章をご参照してください。
Execute → 環境設定により定義されたデフォルトアプリケーションによって選択されたファイルを開きます。例えば、プログラムを実行すると自動的に実行できますがテキストファイルなら、デフォルトテキストエディタによって実行されます。
Explore → エクスポローラを開き、ディレクトリやファイルの位置を示します。
Empty → ファイルの内容を消去します。例えば、ログファイルを掃除するために設計された機能です。
Wipe → 復元できないようにファイルを削除します。「ファイルをワイプ」はプライバシーが高まる反面にパフォーマンス速度が低下させます。削除したいファイルの指定は環境設定によって設定できます。
Move to recycle bin → 選択されたファイルをごみ箱に移動し、消去します。
Remove from list → ファイルツールから選択されたファイルを消去しますがハードディスクから取り外しません。
Split → ファイルを複数の部分に分割することができます。
Merge → 2つか複数のファイルを結合します。オリジナルなファイルを変更せずに選択されたファイルとその内容が作成できます。新規ファイル名が必要となります。.
Encrypt → 幅広いオプションとともにファイル暗号化することができます。詳しくは、【ファイル暗号化】の章をご参照してください。
Decrypt → 選択されたファイルの暗号を解読します。つまり、暗号化されたファイルを使う前、暗号を解読しなければなりません。
View → 選択されたファイルは jv16 パワーツールのデフォルトファイルビューアで開きます。（環境設定により）
Analyze... → AI (人工知能）と統計手法を用い、ファイルの使用とコンテンツを推測します。ただし、拡張子を無視し、既知のファイル見出しの情報も検出したりしません。よって、分析ツールが未知のファイルに役に立つかもしれません。詳しく、【ファイル分析ツール】の章をご参照ください。

「*More Functions*」ボタン下の機能への使用にはそれぞれの条件に満たさなければなりません。

それぞれの使用条件は下記の表に表示されます。

機能	必要ファイル数
Copy To	1 つか以上
Move To	1 つか以上
Rename	1 つのみ
Mass rename	二つか以上
Change attributes	1 つか以上
Find & Replace	1 つか以上
Execute	1 つのみ
Explore	1 つのみ
Empty	1 つか以上
Wipe	1 つか以上
Move to recycle bin	1 つか以上
Remove from list	1 つか以上
Split	1 つか以上
Merge	二つか以上
Encrypt	1 つか以上
Decrypt	1 つか以上
View	1 つか以上
Analyze...	1 つのみ

ヒント：直接にエクスポローラ かマイ・コンピュータからファイルツールをドラッグ＆ドロップすることができます。jv16 パワーツールの主要画面にファイルをドラッグ＆ドロップすることもでき、ファイルツールにあるファイルが自動に解放されます。

大量リネームツール

このツールがなければ、大量のファイル名一括に変更することができません。
Jv16 パワーツールのリネームツールはたったの名前を変更するツールではない、そのユニック性や使いやすいユーザーインターフェスのおかげで市場で最も優れるツールの 1 つになりました。

ファイルツールを通し、***大量リネームツール***をアクセスすることができます。Jv16 パワーツールの主要画面にドラッグ＆ドロップするだけでファイルツールが開けます。ファイルツールを選び、「More Functions」をクリックしたら、大量リネームは***大量リネームツール***にあります。

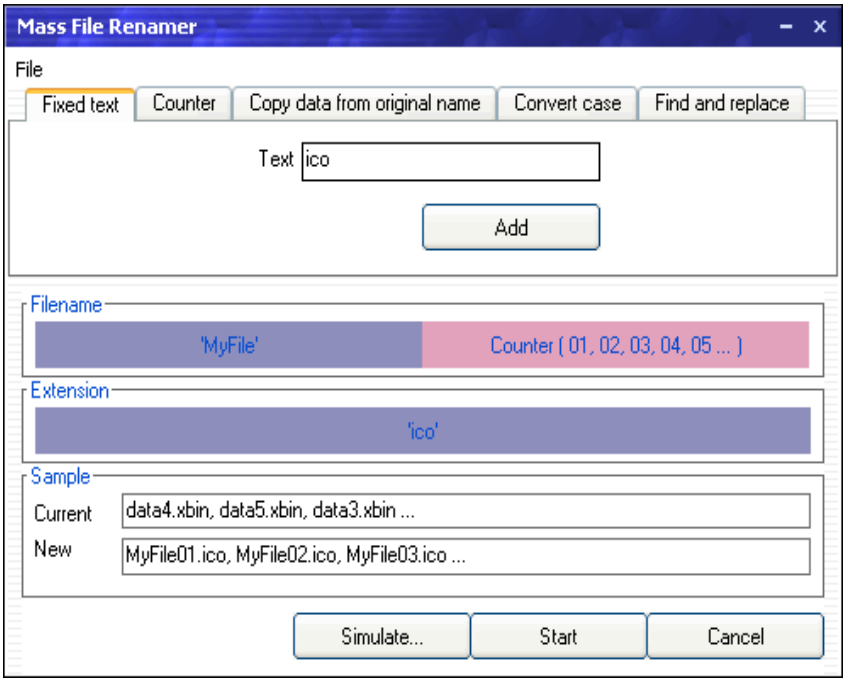


図 29：一括で大量のファイル名を簡単に変更できる。

このツールはブロックに伴い実行し、いわばブロックゲームのような感じで実行されます。
上の図例で、三つのブロックがあります。

1. 「MyFile」テキストブロック
2. 「counter 」ブロックと
3. 「ico」テキストブロック

この３つのブロックが一緒に並べられ、ユニックなりネームパタンが作成されます。最初のファイルは「Arrow01.ico」に名づけ、その次は「Arrow02.ico」になり、このようにファイル名が付けられます。

ドラッグ＆ドロップ形式で自由にブロックを移動することができます。マウスーで移動したいブロックを取って、移動先にドロップします。マウスの左ボタンを押しながら下に移動するとき、ブロックを掴め、キーボードの「DEL」キーを押すとブロックを消去できます。

リネーム作業が容易にするため、「編集前」と「編集後」のイメージが表示されます。現在のファイル名が示される「sample」ボックスの下にあるのは新規ファイル名です。
「simulate」ボタンをクリックすることによって、リネーム処理のシミュレーションを行い、選択されたファイルの新規ファイル名が 1 つずつ表示されます。

警告：大量リネームツールではバックアップ作成しないから、「start」ボタンを押したら元に戻すことができないのにご注意ください。操作をよく理解頂いた上で、ご使用してください。

ファイル属性ツール

一括で複数ファイルの古い属性を消去したり、新規属性を追加したりすることができます。

ファイルツールをとおし、ファイル属性ツールをアクセスできます。あるいは、Jv16 パワーツールの主要画面にドラッグ＆ドロップするだけでファイルツールが開けます。つきまして、ファイルツールを選び、「More Functions」をクリックしたら、「ファイル属性ツール」が見えます。

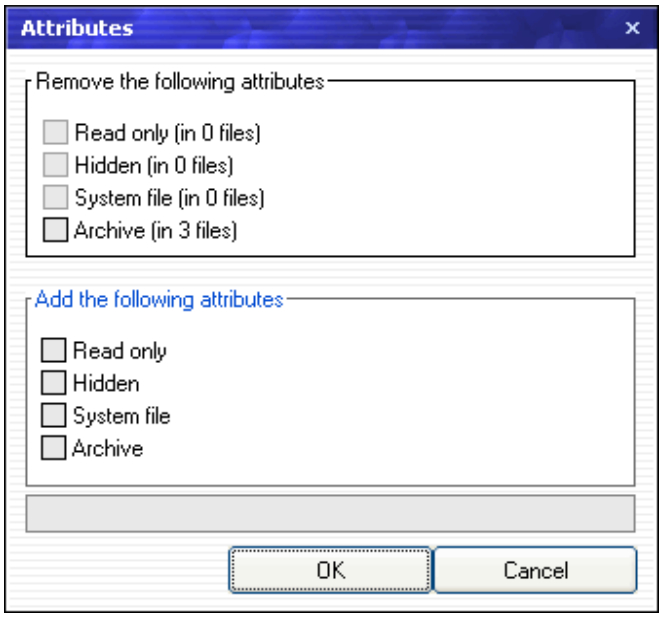


図 30. 複数ファイルの属性を編集できる

警告：ファイル属性ツールではバックアップ作成しないから、「start」ボタンを押したら元に戻すことができないのにご注意ください。操作をよく理解頂いた上で、ご使用してください。

探索・置換ツール

簡単に複数ファイル内のデータを置き換えます。このツールは「ｔｘｔ」、「ｈｔｍｌ」のようなASCIIテキストファイルのみ対象します。

ファイルツールをとおし、*探索・置換ツール*をアクセスできます。あるいは、Jv16パワーツールの主要画面にドラッグ＆ドロップするだけでファイルツールが開けます。つきまして、ファイルツールを選び、「More Functions」をクリックしたら、「探索・置換」が見えます。

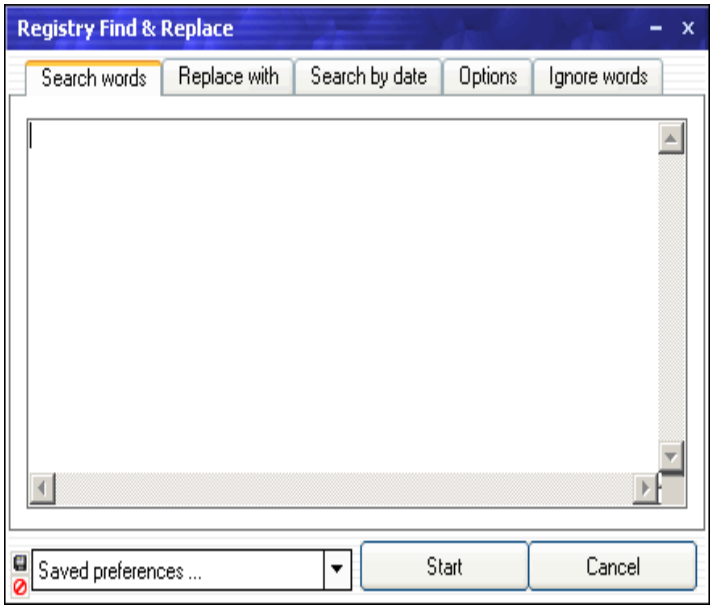


図 31.1 1つか複数ファイル内の探索・置換することが簡単にできる

注：「start」ボタン有効にする前、「search words」と「replace with」セクションにそれぞれ少なくとも１つの単語・置換単語を入力しなければなりません。

探索・置換の結果画面

前途述べたように、このツールはレジストリ探索・置換ツールと同様なアプローチが扱われています。

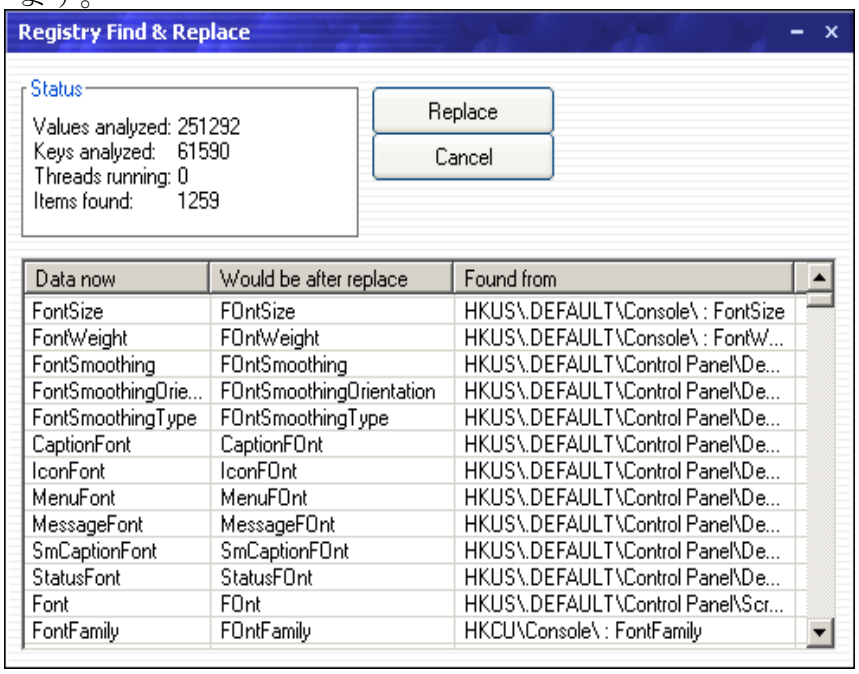


図 32.探索・置換処理の結果

探索作業の結果は新規結果ウィンドウに表示されます(図 47 を参照してください)。取替えられたくない項目があれば、メニューの右クリックで除去してください。同じ方法で関連するファイルやディレクトリを開くこともできます。

「*Replace*」をクリックする前、一覧に取り替えたい項目しかないことをよく確認してください。変更が実施される前、「cancel」ボタンを押せばプロセスが停止できます。

ファイル暗号化ツール

ファイルを暗号化にするためのツールです。暗号化とは、暗号化されたファイル内容を元に戻したり、消去したり編集したりするためにパスワードの入力するが必要です。

ファイルツールを通し、ファイル暗号化ツールをアクセスすることができます。Jv16 パワーツールの主要画面にドラッグ＆ドロップするだけでファイルツールが開けます。ファイルツールを選び、「More Functions」をクリックしたら、暗号化ツールが見え、ファイルはその中にあります。

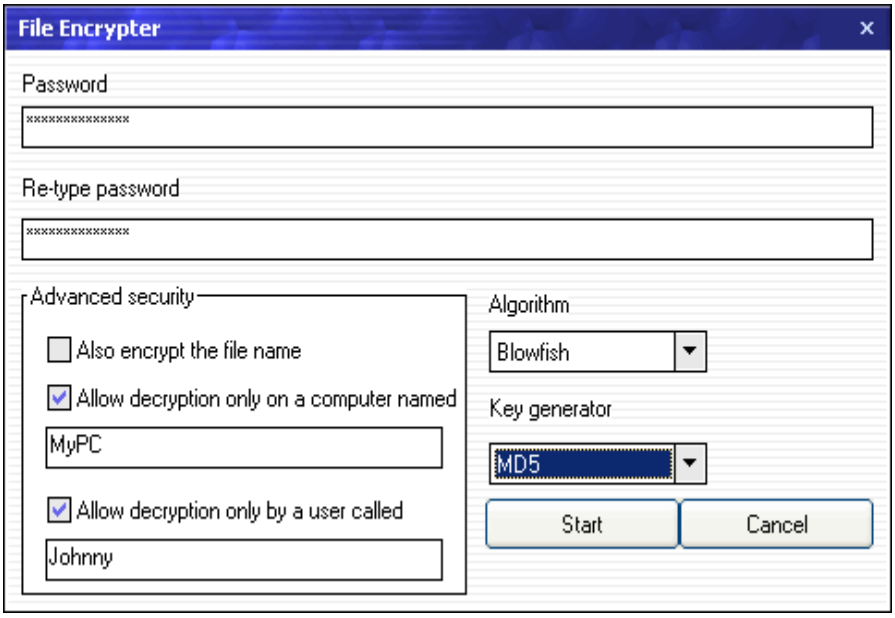


Image 33. Encrypting files is fast and easy with the File Encrypter

Jv16 パワーツールの暗号化ツールは現代データ暗号化アルゴリズムを殆どサポートする上、セキュリティ性を高めるため、3 つの優秀、ユニックな方法を提供します。

1. ファイル名を暗号化すること；
2. 指定したコンピュータのみ復号化すること；
3. 指定したユーザーのみ復号化ができること

サポートするデータ暗号化アルゴリズムは： 3Way, 3DES, Blowfish, Diamond II, FROG, Gost, Q128, Rijndael, Safer-SK128, Sapphire II, SCOP, Shark, Skipjack, Square, Tea と Twofish です。

以下にはファイル暗号化ツールの機能を紹介します。

- 「*Also encrypt the filename*」 → 「ファイルの名前も暗号化する」とは、プライバシーを守るため、秘密的なファイルは「A432AD321S12A3FA2D1A65BC」 のような名づけられ、ファイルの正体を隠します。復号化後、元のファイル名を元に戻します。
- 「*Allow decryption only on a computer named*」→ 指定したコンピュータの名前もパスワードとして使われようにします。指定したコンピュータのみファイル復号化ができます。暗号化したファイルは他人に送信しない限りセキュリティを高めます。

- 「*Allow decryption only by a user called*」→　ウィンドウズユーザー名もパスワードとして使われるようにします。
- 「*Algorithm*」→　「アルゴリズム」ボックスはすべて使用可能なアルゴリズムを提供します。アルゴリズムの名称が認識できない場合、変更しないでください。
- 「*Key generator*」→ このボックスにサポートするキーがすべて表示されます。意味不明な設定への変更をしないでください。

暗号を解読するとは、暗号化したオリジナル内容を元に戻すこと。そのとき、「*Decrypt*」ボタンをクリックするとともに正しいパスワードを入力しなければなりません。

ファイル分析ツール

ファイルの種類を認証する作業は未だに容易になっていない上、それを対応するツールもあまり存在していません。jv16 パワーツール 2008 には、ファイルの内容や種類を分析、認識できる非常に使いやすい属性分析ツールを供します。

「ファイルツール」を通し、「ファイル分析ツール」をアクセスすることができます。あるいは、Jv16 パワーツールの主要画面にドラッグ＆ドロップするだけで「ファイルツール」が開けます。そして、ファイルツールを選び、「More Functions」をクリックしたら、「ファイル分析ツール」が見えます。

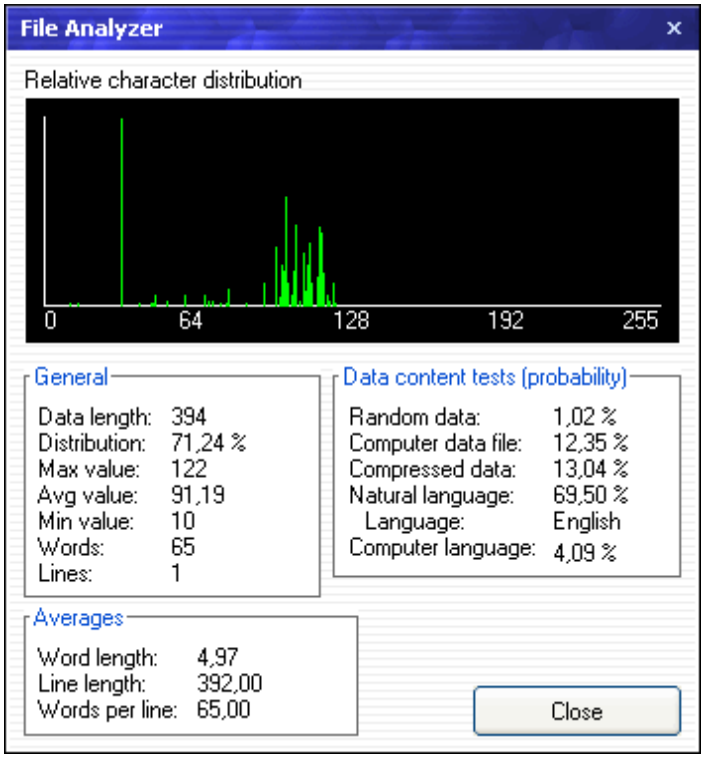


図 34.「ファイル分析ツール」を使って、手軽にファイル内容を分析できる

ファイル分析ツールには、拡張子を分析しないと思います。なぜならば、.jpg. という拡張子が持つファイルは決して画像ファイルとは思わないからです。よって、ファイルの正体が故意的に破損され、変更される可能性があるため、あるヘッダ、またはフッタに関する情報への分析もしません。その代わりに、統計手法と AI（人工知能）データ認証手法を結合したユニックな方法が使われます。

データコンテンツのテキストボックスからファイルのタイプがわかります。そこで、ファイル内容の割合が表示されます。「自然言語 50%」というのはこのファイルは 50%の割合が自然言語であり、つまり半分のテキストが英語、または他の言語であることを示します。

以下データコンテンツのテキストボックスの内容：

- ***Random data*** → 「ランダムデータ」とは、任意の認識パターンがなさそうデータのこと。
- ***Computer data file*** → 「コンピュータデータファイル」とは、任意の符号化ファイルのこと。例えば、圧縮されたイメージ(jpeg、 gif、png) や符号化文書(ワード文書、 Excel スプレッドシートやなど)
- ***Compressed data file*** → 「圧縮データファイル」とは、すべての圧縮率が高いデータ形式のこと。例えば、zip ファイル 、rar、 arj 、 lha や圧縮フォーマットファイル
- ***Natural language*** → 「自然言語」とは、符号化にされていないデータ、自然言語で表示すること。例えば、英語または他の言語
- ***Computer language*** → 「コンピュータ言語」とは、 符号化されていないデータのこと、ようするにコンピュータが読み込める言語のような形式である。例えば、プログラミング言語(C/C++、Java、 Delphi、 VB、 PHP やなど) または XML のような言語。

ご存知のようにファイルコンテンツへの分析作業は非常に難しいです。ファイル分析ツールは分析内容に誤りを生じる可能性もありますがせめてユーザーにデータの概要を知らせることができます。

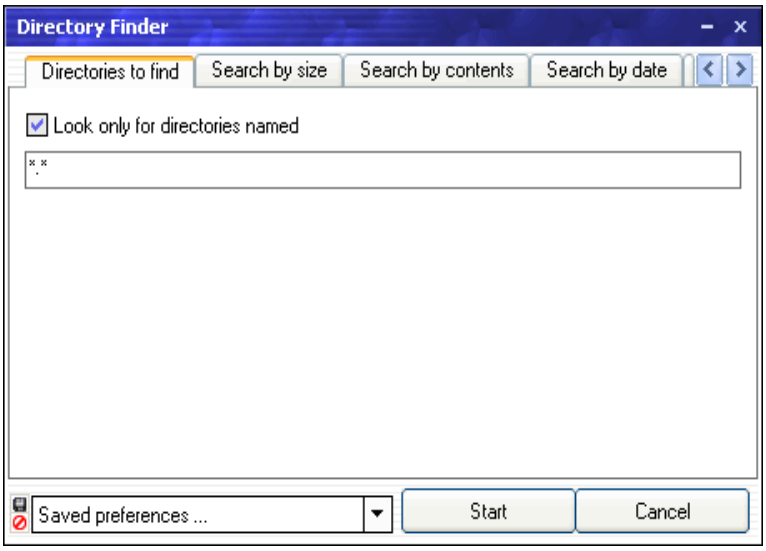
以下には一般ボックス内に含まれるファイル内容についての統計情報を示す：

- 「*Data length* 」→ 「データ長」バイトでデータの長さを示す
- 「*Distribution* 」→ 「分散化」データの分配率を示す。《Relative character distribution イメージ》の数値表現
- 「*Max value*」→ 「最大値」最大バイト値のこと。データはバイトで分析される。最大バイト数は 255 に反し最小バイト数は
- 「*Avg value*」→ 「平均値」 平均バイト数を示す。上記の条件をご参照してください
- 「*Min value*」→ 「最小値」 最小バイト数を示す。上記の条件をご参照してください
- 「*Words* 」→ 「単語数」推測されたファイル内の単語数を示す。ただし、その単語数は圧縮されていない・符号化ではないファイルのみ対象する。例をあげるとテキストファイル（.txt file.）がある。
- 「*Lines*」→ 「行数」推測されたファイル内の行数を示す。上記の条件を参照してください。

《平均ボックス》に以下の統計情報が含まれます。

- 「*Word length*」 → 平均単語間隔
- 「*Line length*」→ 行と行の間の間隔
- 「*Words per line* 」→ 一行当たりの文字数を推測する

ディレクトリファインダー



35. ディレクトリファインダーを使って、異なるプロパティで検索できる

このツールには、検索条件に一致するディレクトリを検索します。

以下には使用できる検索オプションについての説明概要です。

- ***Search by search word*** → 「単語で検索」では、１単語で検索できる。ワイルドカードが使える。
- ***Search by size*** → 「サイズで検索」では、指定したサイズ、または指定範囲のコンテンツサイズにマッチするデータを検索できる。例えば、指定したディレクトリより大きい、小さい、等しい、または 100KB 以上 1MB 以内のデータ、といった条件で検索できる。
- ***Search by* contents** → 「コンテンツで検索」では、指定したファイル数・サブディレクトリ数で検索する。例えば、ファイル個数１０とサブディレクトリ個数２、少なくともファイル数は「1 以上 200 以内のもの」、よいった条件で検索する。そして、指定したディレクトリサイズよりも大きい、小さい、等しい、約１０ MB の、といった条件でも検索できる。
- ***Search by date*** → 「日時で検索」では、検索対象の日付と時間を指定して、作成日時、更新した日時、最近使った日時、といった条件でディレクトリを検索する。例えば、10 年前使ったファイル、何ヶ月前、何日前、何時間か何秒前、といった条件を指定できる。

いくつかの異なる検索機能を自由に併行して使えることを覚えてください。例えば、"temp*"　最低ファイル個数１が含まれ、7 日間以上未使用のディレクトリ、ファイル個数と使った日時といった条件を絞って検索することができます。検索結果は常

にディレクトリツールに伴い表示されます。詳細な情報は次の章をご参照してください。

ディレクトリツール

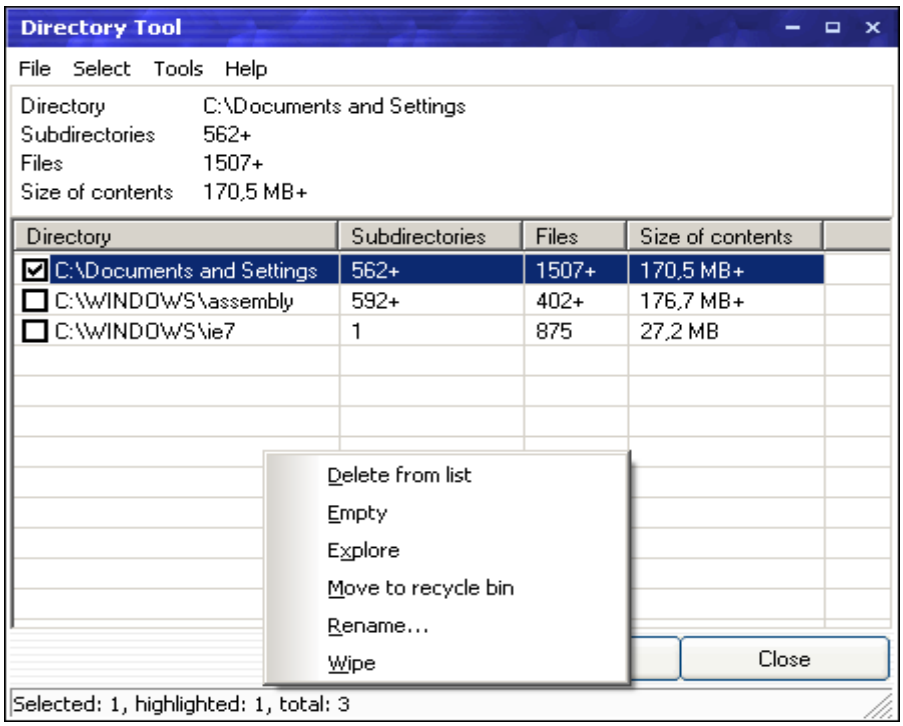


図 36. ディレクトリツールを使って、ディレクトリへの管理、変更するができる

ファイルツールと類似な機能が持ちますがこのツールはディレクトリを管理するために設計されました。実行可能な基本の操作も含まれます。

「*More Functions*」ボタンをとおし、以下の機能を操作できます。

- ***Move to recycle bin*** → 「ごみ箱に移動」で、ディレクトリに関するすべてのサブディレクトリおよびファイルをごみ箱に移動して消去する。
- ***Wipe*** → 「ワイプする（意訳：ファイルを消す）」機能で、すべてのディレクトリの内容を消去できる。「ワイプする」とは、数十回以上繰り返して上書きさせたデータは二度と元に戻せずに、消去すること。
- ***Rename*** → 「リネーム」とは、ディレクトリの名前を変更すること。リネームするとき、新規の名前が必要。
- ***Remove from list*** → 「一覧から消去」一覧からディレクトリを消去することができるがハードドライブから消去できない。
- ***Explore*** → Windows のファイル管理ツールを開き、選択されたディレクトリが示される。
- ***Empty*** → ディレクトリ構造を消去せずにディレクトリとサブディレクトリにおけるすべてのファイルを消去する。

ディレクトリファインダー(前章をご参照してください)、あるいは主要画面にディレクトリをドラッグしすることによってディレクトリツールと共にディレクトリをリストアップできます。

ドラッグする場合、コンテンツコラムのサブディレクトリ、ファイルおよびサイズの情報が《N/A》、表示できないと示されます。逆に、ディレクトリファインダーを使う場合、データが表示されます。

ディスクワイパー

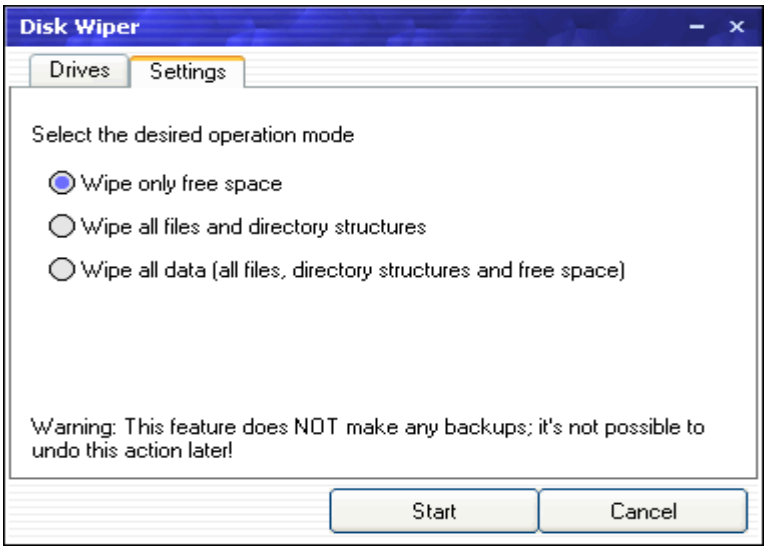


図 37： ディスクワイパーを使って、ハードドライブからデータを拭くことができる

ディスクワイパーで数十回以上繰り返して上書きさせたデータは二度と取り戻せずに、ハードドライブから消去します。上書き回数が設定画面によって設定されます。

このツールは以下の 3 つの実行方法によって実施されます。

1. ハードドライブの空きスペースしかワイプしない
2. すべてのファイルおよびディレクトリ構造をワイプする
3. 上記のすべてをワイプする（データ、空きスペース、ディレクトリデータとファイル）

ディスクに格納されてあるメタデータ破損に注意してください。

デイスクワイパーによって取り消される情報は下記に示します。

- ファイル名
- ディレクトリ名
- ファイル属性
- ファイルとディレクトリのすべてのコンテンツ

ヒント：ディスクワイパーでは一括で大量なデータをきれいにするために設計されたツールです。1 つか少数のデータをワイプする場合、「ファイルツール」を使ってください。ディレクトリをワイプしたい場合、「ディレクトリツール」を使ってください。

スタートメニュー修復ツール

スタートメニューとデスクトップには、容易に破損したショートカットに詰められてしまいます。例をあげると、アンインストールしても除去されないショートカット、アプリケーションの移動により破損されたショートカットやなどがあります。ところが、スタートメニュー修復ツールを使えば、マウスクリックだけで手軽に問題を解決できます。

スタートメニューとデスクトップにあるショットカットへの分析が自動的に実行されます。破損したショットカットを削除する機能、および修復機能も含まれます。例えば、アプリケーションを移動させるのが気付かれ、新しい位置を示すため自動的にショットカットを修復できます。修復できなかったショットカットは除去されるでしょう。

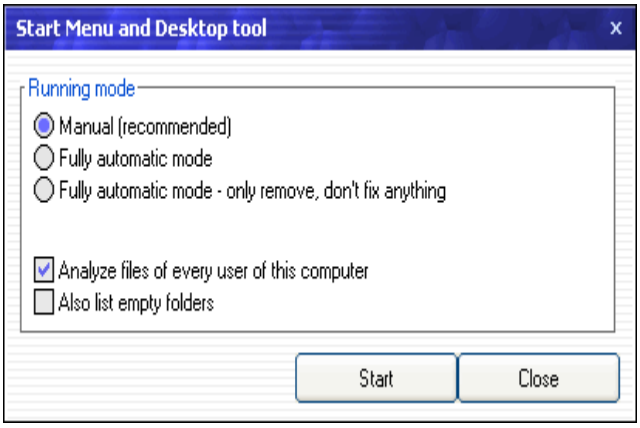


図 38：簡単に破損したショットカットを修復できるツール

修復したいショットカット、除去したいショットカット、残したいショットカット、といった設定はユーザーによって決められる手動モードの使用は推奨します。

履歴・MRU クリーナー

多くのアプリケーションには、最近使ったファイル、最近使ったディレクトリ、鑑賞した映画やなどの足跡がそのまま記録されます。この機能は役に立つかもしれないがプライバシー問題を引き起こす可能性も考えられます。

優秀なツールがなければ、サードパーティの履歴と MRU（最近使用したファイル・データ）一覧の掃除作業は非常に時間がかかります。履歴・MRU クリーナーには、掃除したい項目を選択し、「clear」を押せば動作が簡単で、速くて実施されます。

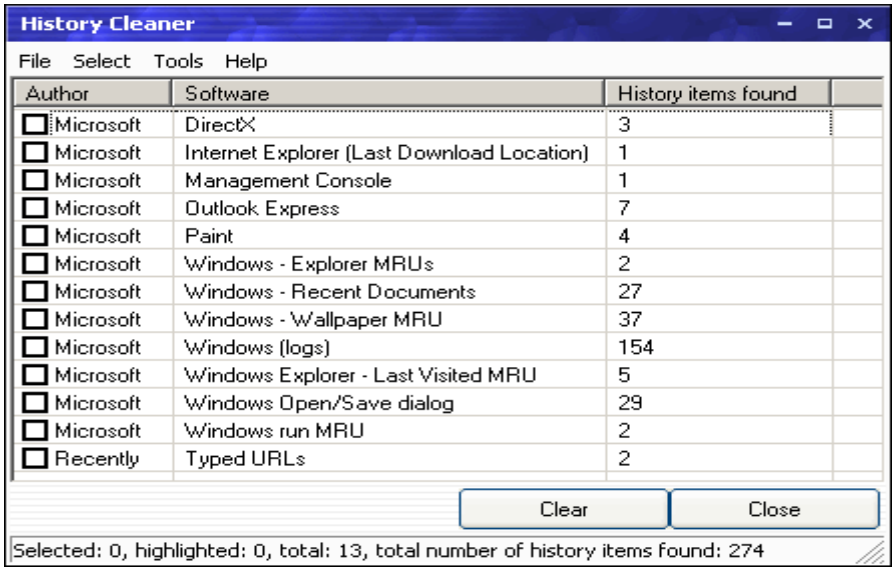


図 39. このツールで履歴と MRU データが簡単に、速やかに、掃除される。

歴史/MRU クリーナーには、ハードドライブのレジストリから見つけられた各項目の履歴数を示します。項目の右クリックし、「Show data...（データを示す）」を選択したら、ソフトに関連するレジストリエントリーとファイルの情報が見えます。

自動化ツール

Jv16 パワーツールの基本なタスク、例えばファイルクリーナーやレジストリクリーナーやなどを自動化ツールで非常に容易に自動化させます。

作成された自動タスクまたは新規自動タスクが実施できます。

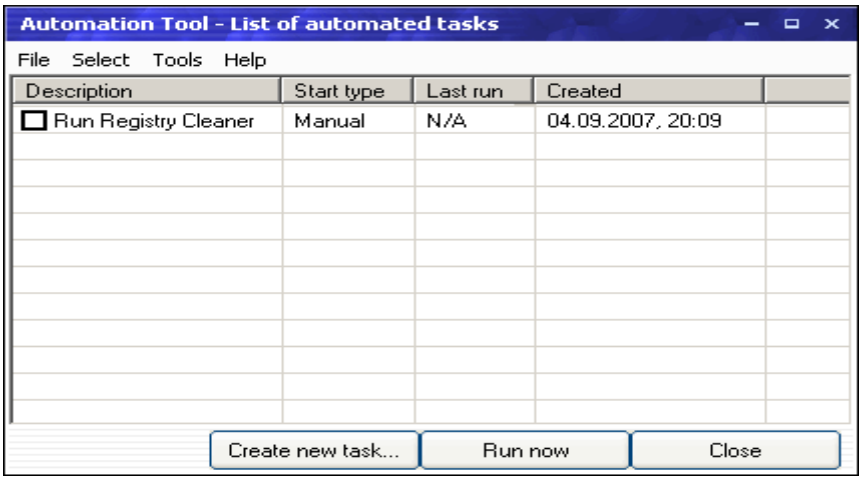
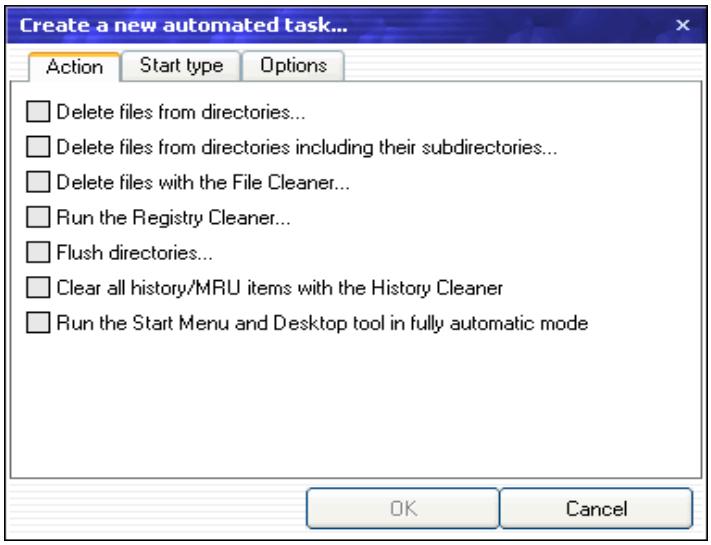


図 40. 自動化ツールを使えば、たくさんの作業が自動化になる。

自動化ツールを使えば、作成された自動化タスクまたは新規自動化タスクを実行することができます。



「*Create new task* button」ボタンをクリックすると、新規自動化ツールタスクが作成されます。実際の作成プロセスは非常に簡単です。あらかじめ、実行したい作業を設定しておくべきです。（図５６を参照してください）

「スタートタイプ」セクションにはタスクへの操作仕方を設定します。例えば、手軽に操作できるようにデスクトップにタスクの新規アイコンを置いておき、またはシステム起動時とともに実行するように設定しておきます。

「オプション」セクションにタスクのファイル名と記述データを入力すべきです。両方のボックスに入力後、「OK」をクリックすれば、設定作業が完了となります。

よくある質問・FAQ

本章には jv16 パワーツールに関する**よくある質問**にお答えしています。検索しやすくために、質問はカテゴリ別に分けらています。

Jv16 パワーツールのインストールについて

Q: インストールする際に、どんなレジストリエンドリーがインストールされますか。
A: インストールする際に、レジストリエンドリーを変更したり、追加したりしません。
しかし、30 日間の体験版乱用行為を防ぐため、システムに極小の隠しデータが置かれます。置かれる隠しデータは 1 KB 以内のものです。ようするに、2 GB のハードディスクに占める割合はわずか１００万分の 1 に過ぎない隠しデータです。本ポリシーにご同意いただけない場合、jv16 パワーツールの使用はおやめください。

Q: インストールする際に、システムファイルが変更されますか。
A: 変更しません。上の質問を参照してください。

Jv16 パワーツールを使用前のご質問

Q: コンピュータに被害なんが与えますか。
A: はい。基本的に、本ツールはユーザの指定を従って操作します。本製品は斧のようなものです。正しく取り扱われれば非常に役に立ちますが、逆に使用仕方が間違えば害になります。

Q: ライセンス契約内の免責事項とは、何ですか。
A: jv16 パワーツールの使用により何らかの障害が発生したとしても、当社では一切の責任を負いかねません。詳しくは、よくライセンス契約お読みください。本ポリシーに同意いただけない場合、jv16 パワーツールの使用はおやめください。

ソフトマネージャについてのご質問

Q: ソフトマネージャ内の『Unknown』と示される項目とは、何ですか。
A: jv16 パワーツールが認証できない項目です。ただし、安全に消去できる項目とはいえません。

Q:『N/A 』と表示される項目はいつでも安全に消去できますか。
A: いいえ。残念ながら、安全な削除基準は未だに存在しません。

Q:いくつか認識できない項目があります。どうせればいいですか。
A: 何もせずにそのまま無視したほうが安全です。

Q: 項目を編集したいが、消去しかできないのは、なぜですか。

A: 編集することは、例えばリネームするとき、不具合が生じる可能性があります。編集エントリーのソフトがうまく実行できなくなる恐れがあります。

Q: 削除すべき項目は、どうすれば分かりますか。
A: それは知っていいただけるはずでしょう。万一、削除項目に対し迷いがあれば、削除しないほうがいいです。

レジストリマネージャについてのご質問

Q: 『N/A』と表示される項目はいつでも安全に消去できますか。
A: いいえ。残念ながら、安全な削除基準は未だに存在しません。

Q:いくつか認識できない項目があります。どうせればいいですか。
A: 何もせずにそのまま無視したほうが安全です。

Q: 項目を編集したいが、消去しかできないのは、なぜですか。
A: 編集することは、例えばリネームするとき、不具合が生じる可能性があります。編集エントリーのソフトがうまく実行できなくなる恐れがあります。

Q: 削除すべき項目は、どうすれば分かりますか。
A: 知っていいただけるはずです。万一、削除項目に迷いがあれば、削除しないほうがいいです。

レジストリクリーナーについてのご質問

Q: レジストリクリーナーとは？
A: 自動的に異常なレジストリエントリーを検出して表示しするツールです。

Q: スレッドとは？
A: スレッド番号では現在実行中のレジストリ分析単位を表します。スレッド番号はゼロになったら、掃除プロセスが完了したと意味します。

Q: jv16パワーツールのレジストリクリーナーはAI（人工知能）を使用してますね。更新した項目か有効か無効かの分析結果を毎回表示されるという意味するのでしょうか。
A: いいえ、jv16パワーツールは実験前のニューラルネットワークに基づくAIを使用します。AIは本社のテスト環境に訓練されてあります。ようするに、ユーザーに使われる間に、学習能力が発揮できません。

Q: なぜAI（人工知能）はなにも学習できませんか。

A: そのために設計されました。なぜなら、レジストリクリーナーのようなシステム保守のに非常に危険度の高い手順であるからです。AI の学習はエラーが生じる傾向があります。そのため、AI の学習は危険度の低いアプリケーションに使用されます。例をあげると画像認識やなどがあります。

Q: レジストリクリーナーを使うとき、スレッド値が下がる一方他の値は上がります。それは普通ですか。
A: はい、普通です。スレッドはレジストリをチェックするレジストリクリーナーの構成の一部です。完了後、スレッド値は自動的に下げて、作業を終わらせます。

Q: レジストリクリーナーのスキャン報告により２６万４３９７キーと２３万１３７６値があります。一方、レジストリファインダーの報告だと、レジストリにあるキー数が１０万で、価値分析値数は３６万３千です。なぜそれぞれ異なっていますか。
A: レジストリエラー分析（レジストリクリーナーの作業）とは、各データ項目 (キーか値) は何回も分析されます。例えば、値のタイプは何か最初の分析でわかります。それはストリングであれば、ストリング分析が実施されます。ストリングプロセスを通ったら、他のサブアナライザーに分析されるかも、よって、価値分析数さらに増えてきます。

逆に、レジストリファインダーは、与えられた検索条件に一致する単語・複数単語に対し、各値とキーを分析するだけです。前者と比較したらよほど直接的に簡単なプロセスです。そういうわけで、他のツールのアプリケーションはそれより小さいな値とキー数を報告する可能性があります。しかし、レジストリファインダーはレジストリクリーナーが分析できない多くのデータフォームを分析でき、例をあげると数量データ(dword データタイプ)があります。よって、価値分析数はレジストリファインダーより大きな原因の一つだと分かります。

基本的に、キー数と価値分析数はユーザーに知らせるのに違いない、それぞれの数字は「参考値」もしくは他の製品との「比較値」として考えるのは御やめください。

重複するファイルファインダーについてのご質問

Q: 重複ファイルの検索が行いました。すべての重複ファイルを削除できますか。
A: いいえ、それはできません。このように重複ファイルを削除するのは安全ではありません。重複ファイルファインダーは、ファイル収集から、音楽ファイル、ビデオファイルやなどの複製ファイルを検出するために設計されたのです。

ファイルツールについてのご質問

Q: ファイルの検索ではなく、大量リネームのみしたいです。検索せずに、何かファイルをリストに追加する簡単な方法がありますか。
A: はい、あります。ドラッグ＆ドロップに対応します。デスクトップかエスクポーラから jv16 パワーツールの主要画面にファイルをドラッグすれば追加作業が実行されます。

ライセンスについてのご質問

Q: ただいま、ラインセンスを購入せれば、いつラインセンスバージョンが届けれくれますか。
A: ご入金の確認後、通常は数分以内に E メールでお届けします。.

Q: 利用可能な決済方法は、何かありますか。
A: 現時点では、クレジットカード（Visa、 Visa Electron、 MasterCard、 Maestro、 Discovery と American Express）と PayPal で決済できます。それに関する更新情報は www.macecraft.com までご参照してください。

その他のご質問

Q: 異常が生じる場合、DOS からバックアップを復元できますか。
A: はい、通常はできます。バックアップディレクトリ(\jv16 PowerTools\Backups by default)をアクセスできたら、復元できます。レジストリに.reg ファイルをインポート返すために、手動で復元すべきです。

Q: チェックすべきチェックボックスとチェックする必要がないボックスがあります。それはなんのためですか。
A: 安全性のためです。ある項目にチェックをする度、なんのためにチェックするのが知っておくべきです。その項目を削除したいという例があります。

Q: jv16 パワーツールを私の言語に翻訳できます；貴社はそれを公式の配布版にする興味はありませんか。
A: はい、当然です。詳しくは、デフォルト言語ファイル(\Languages\English.lng) をご参照ください。

Q: 聞きたい質問はここにはありません、どうすればいいですか。
A: www.macecraft.com/forum/のフォーラムをご参照ください。フォーラムで既に答えがあるかもしれません。お探す答えがなかったら、フォーラムを登録して（登録はもちろん無料）、そこで質問をしてください。フォーラムの使用は強く推奨します。なぜなら、殆どの場合フォーラムの使用は本社にメールするより回答が得やすいからです。

付録

コマンドラインパラメータに対応する

jv16 パワーツール 2008 以下のコマンドラインパラメータをサポートします。
Windows コマンドプロンプト、新規ショットカットの作成、ファイル名の後ろに追加するコマンドラインパラメータのいずれかの方法によって機能できます。例えば、
“C:\Program Files\jv16 PowerTools 2008\jv16pt.exe” –FileTool

コマンドラインパラメータ	解説
-AutomationTool	自動化ツールを開く
-BackupTool	バックアップツールを開く
-CookieManager	Cookie マネージャを開く
-DuplicateFinder	重複ファイルファインダーを開く
-FileFinder	ファイルファインダーを開く
-FileCleaner	ファイルクリーナーを開く
-FileTool	ファイルツールを開く
-HistoryCleaner	履歴クリーナーを開く
-HistoryManager	履歴マネージャを開く
-PrivacyProtector	プライバシー保護者を開く
-RegCleaner	レジストリクリーナーを開く
-RegFinder	レジストリファインダーを開く
-RegFindReplace	レジストリ探索・置換を開く
-RegManager	レジストリマネージャを開く
-RegMonitor	レジストリモニターを開く
-StartMenuFixer	スタートメニュ修復ツールを開く
-Settings	設定画面を開く
-ExecTask “C:\filename.jvb”	自動化ツールによって作成された自動化タスクを実行する

セキュリティ備考

jv16 パワーツールのセキュリティ対策が（環境設定画面のセキュリティタブの下にある）使いたい場合、以下の備考をよく覚えてください。

1. 設定画面のセキュリティタブの下で希望するセキュリティモード設定後、無許可の修正を防ぐために \Settings\Security.dat を保護すると記入してください。Jv16 パワーツールが NTFS パーティションインストールされた場合のみ、ファイルを保護することができます。「ファイルを保護する」と記載されていなかったら、どなたでもセキュリティモードの設定を変更でき、よって、セキュリティー設定を迂回させることができます。
2. 危険な環境で「ノーマル GUI が起動される時のみ、パスーワードの入力が必要」といったセキュリティモードの使用は**推奨しません**。セキュリティモードは特別にフォーマットされた自動化タスクに起動された正常なユーザインタフェースを迂回できます。なぜなら、直接起動する代わりに自動化タスクに起動されたユーザインタフェースはパスワード不要となるからです。